

形容詞性接尾辞-ニクイ／-ヅライ：

その特性と使用動向

言語学・応用言語学専門分野

1LT14001G

2014（平成 26）年入学

青木花香

2018（平成 30）年 1 月提出

要旨

本論文は、困難さを表す形容詞性接尾辞-ニクイと-ヅライについて考察した論文である。コーパスを用いて「外的要因である場合-ニクイ、内的要因である場合-ヅライが選択される」という従来の仮説を検証し、その上で「-ニクイは単純な困難さや動作の難しさを表し、-ヅライは困難さによって動作主が心理的影響を受ける場合に使用される」という新たな仮説を主張する。さらにアンケート調査を行い、仮説の妥当性と若年層における-ヅライの使用分布の拡大を主張した。

目次

1. はじめに.....	1
2. 先行研究.....	2
2.1. 飛田・浅田（1991）	2
2.2. 金（2001）	2
2.3. 金城（2011）	3
2.4. 進藤（2014）	3
2.5. 鈴木（2014）	4
3. コーパスに基づく-ニクイ・-ヅライの特性調査.....	5
3.1. 調査内容.....	5
3.2. データ、調査方法.....	5
3.3. 調査結果.....	5
3.4. 飛田・浅田（1991）、三木（2004）の検証 ー外的・内的要因ー.....	9
3.5. 鈴木（2014）の検証.....	9
3.5.1. -ニクイにおける実現不可能性との関わり	9
3.5.2. -ヅライと心理的抵抗感（恥ずかしさ）との関わり	11
4. 仮説：「単純な困難さ・難易度の高さ」と「主体への影響」という考え方.....	13
5. アンケート調査による検証.....	15
5.1. 調査内容.....	15
5.2. 調査方法.....	15
5.3. 調査結果と分析.....	16
5.3.1. 回答者について	16
5.3.2. 年齢による差異	17
5.4. 仮説の検証.....	18
5.5. 先行研究の検証.....	24
5.5.1. 飛田・浅田（1991）、三木（2004）の検証.....	24
5.5.2. 鈴木（2014）の検証	25
5.5.3. 金（2001）の検証	29
6. おわりに.....	32
6.1. まとめ.....	32
6.2. さらなる問題と課題.....	32
参考文献.....	34

巻末付録.....	35
アンケートの例文一覧.....	35
各例文の回答結果一覧.....	40
重回帰分析の結果.....	44
Google フォームの回答画面イメージ	45
1 ページ目（説明とフェイス項目）.....	45
2 ページ目～5 ページ目（例文合計 31 個）.....	46
6 ページ目.....	47
7 ページ目（最終ページ）.....	47

1. はじめに

形容詞性接尾辞「-ニクイ」と「-ヅライ」は、どちらも動詞の連用形に接続し動作などが困難な状況を表すが、基本的に両者に大きな差はなく、どちらを使っても良いという認識が一般的かもしれない。

- (1) a. ok 平均台の上では、バランスが取りにくい。
b. ok 平均台の上では、バランスが取りづらい。
- (2) a. ok イメージが湧きにくいので、絵に描いて説明してください。
b. ok イメージが湧きづらいので、絵に描いて説明してください。

一方で、高島（2007）では、近年-ヅライが広く使われるようになってきているという意見も見られ、実際テレビや新聞、雑誌においては、-ニクイを使用しても良いところで-ヅライが選択されている場面¹が見られる。本稿では、そもそも-ニクイと-ヅライはどのような特性を持つのか、両者には何らかの差異が見られるのかということについて検討していきたい。

前半ではコーパスを用いて両者の特性や前接する動詞の特徴、先行研究の検証を行った上で、-ニクイと-ヅライを使い分ける際の執筆者独自の仮説を主張する。後半ではその仮説と先行研究の再検証を行い、世代ごとの使用動向の違いにも着目した。

なお、同様に困難さを表す表現に-カネルと-ガタイがあるが、どちらも硬い文体に多く見られ決まった動詞に接続する点、基本的に書き言葉で用いられるため、話し言葉や日常での使用度合いとしては-ニクイ・-ヅライに劣る点を考慮し、今回は研究対象から除外した。

¹ エスエス製薬「エスタックイブ TT」のテレビ CM（文字バック編）では、タレントの有吉弘行が「声も出しにくいし…」ではなく「声も出しづらいし…」というセリフを口にしてている。（エスエス製薬公式 HP より <https://www.ssp.co.jp/stac/cm/> 2017/12/16 アクセス）

2. 先行研究

先行研究全体に共通して言えることは、まず-ニクイと-ヅライでは困難さの原因が異なる、という点である。前者は困難の原因が対象（例えば周囲の環境や動作の対象物、動作の際に使用する道具など）にある場合が多く、後者は困難の原因が主体、つまり動作主にある場合が多いとされている。また、-ヅライは基本的に意志動詞にしか結びつかず、無意志動詞とともに使うことが出来ないと言われている。

しかし近年の研究では、困難の原因を外的・内的に明確に分けることは難しく、例外も多く出現している点や、-ヅライが無意志動詞と結合する例が頻繁にみられることが報告されているが、未だ体系的な解明には至っていない。

2.1. 飛田・浅田（1991）

飛田・浅田（1991）では、-ニクイと-ヅライについて、どちらも困難さを表現するものとしつつも、-ニクイは「物理的・心理的双方に起因する難しさを表現するもの」であり、「やや悲観的な困難さを暗示し、困難の原因が主体でなく対象にあることが多い」とする。一方、-ヅライでは「困難を感じている主体の存在」が暗示されているものと説明している。

- (3) この小説は読みにくい。（文字が小さい）
- (4) この小説は読みづらい。（文章が自分には難解だ）

2.2. 金（2001）

金（2001）は韓国の仁荷大学校大学院生の修士論文であるが、日本語母語話者が普段意識することのない-ニクイ・-ヅライの使い分けや相違点について、日本語学習者の視点から考察していたため、今回使用した。

金（2001）では、接尾辞自体の特性から考察するとともに、-ニクイと-ヅライのそれぞれの意味的特徴について分析している。

まず-ニクイの特性についてだが、ほとんどの意志動詞・無意志動詞に接続し、対象への話し手の評価を表すものであり、「行為が容易く出来ない」、「動作や行動がスムーズに出来ない」という意味を表す。特に、無意志動詞に接続する場合には、「対象の性質、気質なども一般的な事象」を表すとされていた。また、-ヅライについては、対象に対する話し手の評価を表す接尾辞であり、「対象の性質・気質などの一般的な事象」を表す無意志動詞には接続しないと断言されていた。

さらに両者を比較検討した結果、ほとんどの意志動詞の場合、お互いに置き換えが可能であり、その場合両者はほぼ同じ意味を表すが、話し手の外的な原因がある場合には-ニクイを使用するほうが自然となり、内的な原因がある場合には-ヅライが自然となるという。一方、-ヅライは無意志動詞には接続できないため、無意志動詞の場合には置き

換えが出来ないとする。

2.3. 金城 (2011)

コーパスをもとに研究したものには、金城 (2011) がある。金城 (2011) では 2004 年 5 月から 2005 年 4 月までの、「Yahoo!知恵袋」に掲載されたベストアンサーの一部 (約 782 万文、約 550MB) から-ニクイ・-ヅライを抽出し、前接する動詞の出現頻度数をそれぞれ比較することで両者の用法の傾向、-ヅライ用法の拡大などを分析している。

調査の結果、以下の 3 点が明らかになったとされている。まず、-ニクイ文²と-ヅライ文の出現数では、前者が後者の 5 倍となっており、出現数に大きく差があることが指摘されている。次に、出現数に大きな偏りがあるにもかかわらず、存在動詞「居る」では「居づらい」が「居にくい」の用例数を上回っており、前者が後者の約 15 倍となったという。そして最後に、-ヅライは無意志動詞とは結びつかず、話者自身に困難さの原因があることを示唆するとされていたこれまでの用法に変化が起こっている、と結論付けられていた。

2.4. 進藤 (2014)

金城 (2011) が「Yahoo!知恵袋」を利用したのに対し、進藤 (2014) では西日本新聞オンライン記事データベース「パピルス」を利用し、1991 年、2001 年、2011 年の 10 年ごと合計 3 回、各 1 年分の紙面データをもとに、書き言葉における-ニクイ・-ヅライ用法の相違とその推移を調査している。多くの先行研究が共時的な研究であるのに対し、進藤 (2014) では 30 年の間における-ニクイ・-ヅライの広がりを通時的に調査している。調査の結果、次の 3 点が明らかになっている。

まず用例数においては、どの期間においても-ニクイが-ヅライの用例数を大きく上回っており、「数の上ではいまだ凌駕するほど」-ヅライの拡大がおよんでいるとはいえない。しかし変化の割合の面では-ニクイが緩やかな増加であるのに対し、ヅライは急激に増加しているという。

また、本来-ヅライと結合しないとされていた無意志動詞と共起する例が「顕著な増加を見せて」おり、特に「分かる」「見える」では数において-ニクイに及ばないものの顕著な増加をみせていた。

そして、飛田・浅田 (1991) では困難の原因が主体にあるとされていた-ヅライだが、困難の原因が明らかに主体にない場合であっても-ヅライが選択されていた例が多く見られたという。

² -ニクイが使用されている文を「-ニクイ文」としている。なお、同様に-ヅライが使用されている文を「-ヅライ文」とする。

2.5. 鈴木 (2014)

鈴木 (2014) は、先行研究をもとに-ニクイ・-ヅライが選択される例文を、外的要因・内的要因の様々な状況に応じて作成し、アンケート調査を行った。対象者は大手町大学の鈴木氏の講義を受ける学生であるが、全員が日本語母語話者であるかは不明である。

結果としては、どの状況においても-ニクイ文が-ヅライ文の数を上回り、全体的に見ると「これまでの先行研究で言われているような外的要因と内的要因の違いが、『にくい』『づらい』の使い分けに大きく影響していることがわかった」とされている。

また、-ニクイと-ヅライそれぞれの傾向は以下のとおりである。

まず-ニクイの特性についてだが、実現不可能性が高い場合-ニクイが多く選択されやすく、不可能性が低くなるにつれ-ニクイの割合が減少するという。

続いて-ヅライの特性については3点言及されている。基本的に内的な要因（「身体的痛み」、「心理的抵抗感」）が困難の原因となっている場合、-ヅライが選択されやすいという。また、心理的抵抗感の大きさに応じて-ヅライが選択されやすくなり、特に「申し訳無さ」が困難の原因となっている場合には-ヅライが選択されやすい。そして、「身体的痛み」が要因となっている場合、外的要因である「けが」であるほうが-ヅライが選択されやすいという。

このように鈴木 (2014) では、「実現不可能性」や「心理的抵抗感」などの鈴木独自の視点で-ニクイ・-ヅライの選択傾向が分析されていた。この2点についてはコーパス調査やアンケート調査で検証を行ったため、詳細については以降を参照していただきたい。

3. コーパスに基づく-ニクイ・-ヅライの特性調査

3.1. 調査内容

これまでの研究では、-ニクイと-ヅライでは数の上では前者が大幅に上回っているとされているが、現在ではどれほどの違いがあるのだろうか。また、-ヅライ用法の拡大が言われているが、先行研究と現時点で比較してもそれが確認でき、実際に数値として実感できるのか。鈴木（2014）で述べられていた-ニクイ・-ヅライの特徴はコーパスにおいても見られるのか。以上の観点から先行研究との差異を確認するとともに、これまで「外的・内的要因の差である」とされ、深く追究されてこなかった-ニクイ・-ヅライのそれぞれの特性について、以下コーパスをもとに考察していく。

3.2. データ、調査方法

本調査では、「KOTONOHA『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 少納言」のデータを使用した。検索対象は書籍、雑誌、新聞、白書、教科書、広報誌、韻文、法律、国会会議録であり、Yahoo!ブログと Yahoo!知恵袋は対象から除外している。これらの中から、「にくい」「づらい」「にくく」「づらく」で検索をかけ、それを Excel でまとめた上で集計等を実施した。なお、「みにくい（醜い）」など、本研究で扱う形容詞性接尾辞ではない「にくい」「づらい」については除外した上で集計している。

3.3. 調査結果

-ニクイの合計出現数は 750 例、-ヅライは合計 477 例であり、今回使用したデータにおいても、先行研究同様-ニクイの出現数が-ヅライのそれを大きく上回る結果となった。また、それぞれに前接する動詞の種類としては-ニクイが 251 種類、-ヅライが 151 種類であり、動詞の種類としても-ニクイのほうが-ヅライを超え、およそ 1.7 倍となった。

さらに、出現数が比較的多い上位 20 位の動詞のうち、-ニクイの用法は見られたが-ヅライの用法は見られなかった動詞は「考える」（-ニクイ 30 例）、「聞き取る」（-ニクイ 14 例）、「届く」（-ニクイ 10 例）、「太る」（-ニクイ 7 例）であった。逆に、-ヅライの用法は見られたが-ニクイの用法が見られなかった動詞は「利用する」（-ヅライ 9 例）、「居る」（-ヅライ 8 例）、「付き合う」（-ヅライ 6 例）であり、金城（2011）の指摘通り「居づらい」が「居にくい」を上回っている。その他、前接する動詞の一覧については以下の表を参照していただきたい。

以上のように今回使用したデータでは、-ニクイと-ヅライの出現数、そして前接する動詞の種類においても、未だ-ニクイが-ヅライを上回っており、数の上ではっきりと-ヅライが-ニクイの分布を侵食しているとは言い難い結果となった。では、意味・用法の面ではどうか。先行研究の検証と新たな仮説の導入により、意味・用法の面から考えていく。

動詞	-ニク イ	-ヅラ イ	合計
分かる	83	58	141
言う	29	20	49
使う	17	25	42
読む	15	23	38
する	15	18	33
考える	30	0	30
見える	23	6	29
見る	9	17	26
出る	18	6	24
入る	13	11	24
受ける	18	3	21
なる	14	5	19
扱う	14	5	19
取る	10	9	19
やる	8	11	19
理解する	7	9	16
聞き取る	14	0	14
話す	4	9	13
住む	8	4	12
聞く	1	11	12
出来る	9	2	11
届く	10	0	10
起こる	9	1	10
書く	3	6	9
歩く	2	7	9
利用する	0	9	9
滑る	7	1	8
居る	0	8	8
太る	7	0	7
治る	4	3	7

動詞	-ニク イ	-ヅラ イ	合計
生きる	3	4	7
とっつく	6	0	6
溶ける	6	0	6
見つける	5	1	6
行く	3	3	6
付く	3	3	6
作る	2	4	6
撮る	2	4	6
上げる	2	4	6
付き合う	0	6	6
育てる	5	0	5
捉える	5	0	5
働く	4	1	5
訳す	4	1	5
出す	3	2	5
入手する	2	3	5
把握する	2	3	5
機械化する	1	4	5
残る	4	0	4
通る	4	0	4
馴染む	4	0	4
表れる	4	0	4
聞こえる	4	0	4
飲む	3	1	4
喋る	3	1	4
掴む	3	1	4
答える	3	1	4
伝える	2	2	4
打つ	0	4	4
説明する	0	4	4

表 1 使用回数順動詞一覧と-ニクイ文・-ヅライ文における各使用回数

順位	動詞	出現数
1	分かる	83
2	考える	30
3	言う	29
4	見える	23
5	出る	18
6	受ける	18
7	使う	17
8	読む	15
9	する	15
10	なる	14
11	扱う	14
12	聞き取る	14
13	入る	13
14	取る	10
15	届く	10
16	見る	9
17	出来る	9
18	起こる	9
19	やる	8
20	住む	8
21	理解する	7
22	滑る	7
23	太る	7
24	とっつく	6
25	溶ける	6
26	見つける	5
27	育てる	5
28	捉える	5
29	話す	4
30	治る	4

順位	動詞	出現数
31	働く	4
32	訳す	4
33	残る	4
34	通る	4
35	馴染む	4
36	表れる	4
37	聞こえる	4
38	書く	3
39	生きる	3
40	行く	3
41	付く	3
42	出す	3
43	飲む	3
44	喋る	3
45	掴む	3
46	答える	3
47	バレる	3
48	壊れる	3
49	起きる	3
50	求める	3
51	見つかる	3
52	持つ	3
53	申し上げる	3
54	生じる	3
55	断る	3
56	通じる	3
57	破れる	3
58	望む	3
59	迷う	3
60	曲がる	3

表 2 -ニクイ文における出現数順動詞一覧

順位	動詞	出現数
1	分かる	58
2	使う	25
3	読む	23
4	言う	20
5	する	18
6	見る	17
7	入る	11
8	やる	11
9	聞く	11
10	取る	9
11	理解する	9
12	話す	9
13	利用する	9
14	居る	8
15	歩く	7
16	見える	6
17	出る	6
18	書く	6
19	付き合う	6
20	なる	5
21	扱う	5
22	住む	4
23	生きる	4
24	作る	4
25	撮る	4
26	上げる	4
27	機械化する	4
28	打つ	4
29	説明する	4

順位	動詞	出現数
30	受ける	3
31	治る	3
32	行く	3
33	付く	3
34	入手する	3
35	把握する	3
36	出来る	2
38	出す	2
39	伝える	2
40	動く	2
41	お答えする	2
42	見分ける	2
43	合わせる	2
44	食べる	2
45	操作する	2
46	買う	2
47	判断する	2
48	判別する	2
49	映る	2
50	行う	2
51	帰る	2
52	確認する	2
53	浸透する	2
54	戦う	2
55	対応する	2
56	電話する	2
57	妊娠する	2
58	反対する	2
59	来る	2

表 3 -ツライ文における出現数順動詞一覧

3.4. 飛田・浅田（1991）、三木（2004）の検証 一外的・内的要因一

飛田・浅田（1991）、三木（2004）など従来の認識としては、困難さの要因が外的か内的か、という面で大きく分けられてきた-ニクイと-ヅライだが、実際例文にあたってみると困難さの要因が対象にある場合に-ヅライが使われていたり、逆の例もあったりするなど、一概に分けることはできなかった。むしろ、例文における困難さの要因が何であるかが明確にはわからない場合や、文脈に依存する場合も多く存在した。したがって、これまでの「原因が主体か客体か」という観点からでは、-ニクイ・-ヅライの特性を明らかにすることは難しいと考えられる。

以下には、困難さの原因が外的か内的かという判断が難しいものを挙げている。

- (5) a. なるほど、その非難は今でも通用する。なぜなら、われわれの家というのは非常に扱いにくい財産であるから、その中に住むというより、しばしば監禁されているようなものだ。 [ヘンリー・D・ソロー/佐渡谷 重信(1991) 『森の生活 ウォールデン』講談社]
(扱うことが難しいのはわかるが、その要因が家にあるのか環境にあるのか不明)
- b. オレ様たちをなんだと思っているんだ」のと、いたけだかになるとは、実になんとも扱いにくい人種ではある。「チョッと顔を貸しな…」 なりゆきは次第に陰悪なものになった。 [大久保 紀次(2005) 『可能性に挑んだ聴覚障害者 ろう者・難聴者 50年のあゆみ』文理閣]
(セリフを言った人物の扱いが難しいことはわかるが、原因はこの文からは明確に判断できない)
- c. 売り場で買ったほうがいいのかね？ それに、宝くじには当たりやすい番号とか当たりにくい番号なんてあるのかな？ [野口 哲典(2003) 『おもしろ数学トレーニング 楽しみながら論理思考が身につく！』オーエス出版]
(疑問形になってはいるが、宝くじで当たるのが難しくなる要因は考えがたい)

3.5. 鈴木（2014）の検証

3.5.1. -ニクイにおける実現不可能性との関わり

鈴木（2014）では状況設定をした例文を用いて考察を行っていたが、その中で他の先行研究では述べられてこなかった新たな要因について言及されていた。その一つが実現

不可能性との関わりである。

鈴木が言うには、-ニクイの代わりに「できない」を用いても「意味の大きな違いは生じない」(6)では積極的に-ニクイが使われるのに対し、「動作の遂行・実現が困難ではあるものの、不可能とまでは言えない」(7)では-ヅライと同程度の使用にとどまったという(鈴木 2014: 114)。つまり、その動作の実現が困難である場合には-ニクイがより選択されるというのである。

- (6) a. 太郎は表情がほとんど変わらないので、何を考えているのか {わかりにくい／わからない}。 [鈴木 2014 : 100-101, A-32.]
b. 熱帯植物は寒い場所では {育てにくい／育てられない}。 [鈴木 2014 : 100-101, A-21.]
c. 外国人に日本語の「わび」「さび」の意味は {教える／教えられる}。 [鈴木 2014 : 100-101, A-17.]
d. 爪を切ったばかりなので、(ジュースの) 缶が {開く／開けられない}。 [鈴木 2014 : 100-101, A-1.]
- (7) a. この図書館はいつもざわついていて、勉強しにくい。 [鈴木 2014 : 100-101, B-28.]
b. ドクダミ茶は苦味が強くて飲みにくい。 [鈴木 2014 : 100-101, A-25.]
c. 夏は暑くて虫も多いので寝にくい。 [鈴木 2014 : 100-101, A-30.]

とても興味深い考察であったが、実現が不可能であるかはそうでないかは文脈や状況に大きく依存するだろう。例えば(6c)では外国人ながらも日本で長く暮らし、日本語も流暢に話すことが出来る外国人であるとしたら、決して「わび」「さび」を理解できないとも言えないはずだ。他の例も同様である。

たしかに執筆者が使用したコーパスで-ニクイが使われていた例文のうち、(8)のように、実際その行為が実現不可能であると思われるものは見られた。しかしそういう例はごくわずかで、ほとんどが本当に実現不可能なのか、その程度が一見ただけで判断することは難しい例文ばかりであった。

- (8) a. ヘルパーになってからです。ぱっと見ただけではどこに障害があるのかわかりにくいので最初は どう接すればよいかとまどいました。 [上原千寿子、松田泰(2005)『事例で学ぶ知的障害者ガイドヘルパー入門』中央法規出版]
b. 異なった次元で設定された地域が混在して叙述されるために、世界史の体系が複雑でわかりにくいものになっているのではないだろうか。 [谷川稔]

(2003)『歴史としてのヨーロッパ・アイデンティティ』山川出版]

- c. 「お前は魚か」 「何だと」 「魚は説明しない」 「日本人の英語はわかりにくい」 ビルは小声で呟いて銃の先で私とジュジュを促した。
[薄井ゆうじ(2003)『イエティの伝言』小学館]

3.5.2. -ツライと心理的抵抗感（恥ずかしさ）との関わり

鈴木（2014）の中では実現不可能性以外にもう一つ、心理的抵抗感という要因について言及されていた。

鈴木は、恥ずかしさの「度合いが大きければ大きいほど、またその恥ずかしさが普遍的であると考えられる場合に『づらい』がより多く選択されるようである」（鈴木 2014: 116）と結論づけている。また、恥ずかしさを伴わない心理的抵抗感でも、抵抗感の「度合いが高ければ『づらい』が使われやすいという傾向はあるようだ」（鈴木 2014: 116）としている。

以下のように、(9)では「他人にその姿を見られる可能性がある」ため、恥ずかしさの度合いが大きく、これらの恥ずかしさは「人によって異なりにくい」、普遍性のある恥ずかしさであると述べている。これらの場合-ツライとくらべて-ニクイが選択される割合が高かったという。一方で割合が低かった(10)は、「普遍的な恥ずかしさを持つとは言えない」例文であったとする。

- (9) a. 痔の薬は（恥ずかしくて）買いづらい。 [鈴木 2014 : 100-101, A-19.]
b. 私は音痴なので、人前では歌いづらい。 [鈴木 2014 : 100-101, A-12.]
c. 運動音痴なので、人前では踊りづらい。 [鈴木 2014 : 100-101, B-08.]
- (10) a. ダイエット中なので脂っこいものは食べにくい。 [鈴木 2014 : 100-101, A-23.]
b. 自作のポエムは恥ずかしくて人に見せにくい。 [鈴木 2014 : 100-101, B-14.]

こちらも実現不可能性と同様に新たな見解だが、どの恥ずかしさが普遍的であるかは、やはり個人差が大きい。恥ずかしさが普遍的ではないとされている(10)も、(9)と同様の恥ずかしさがあると執筆者には感じられてしまった。

以下に挙げているコーパスにおける例文(11)でも、どの程度の恥ずかしさや心理的抵抗感であるのか一概に判断できかねるものばかりであった。

- (11) a. 思春期青年期の性の悩みや将来に対する不安など、身近な人に打ち明けにくい内容が特徴的である。 [大阪府子ども家庭センター編(2000)『大阪子ども家庭白書』大阪府中央子ども家庭センター]
- b. 仕事量が増えたことで「婦人科を受診しなかった理由は、妊娠、出産以外では受診しにくいということもありましたが、それだけではありません。とにかく忙しかったんです。」 [増田 美加(2004)『DoMaNi』小学館]
- c. 胃が強く締めつけられるようだった。 その夜、日本に電話をいれた。娘に直接は電話しづらいからコレクトコールで私のところへかけてくれるように友人に頼んだ。 [北畠 みゆき、北畠 博照(1999)『夫婦二人で海外移住』双葉社]

4. 仮説：「単純な困難さ・難易度の高さ」と「主体への影響」という考え方

第3章のように、先行研究で述べられてきた困難さの要因によって-ニクイ・-ヅライの使い分けがあるとは考えがたいことがわかった。そこで別の観点から考えてみることを提案したい。

-ニクイは単純に「客観的にその動作を行うことが難しい」、「難易度が高い」、「可能性が低い」という内容を表す。一方、-ヅライは「辛い」から来ていることもあり、動作主がその動作によって文字通り「辛い」と感じる、すなわち精神的に影響を受けると考える。

このように考えると、従来無意志動詞と結合しないと言われていた-ヅライの特性を説明できる。以下、無意志動詞と結合する例をふまえて見ていきたい。

- (12) a. *なにかと生きにくい世の中になっている。
b. ok なにかと生きづらい世の中になっている。
(解釈；社会的・経済的などによって、精神的に「生きることが困難・大変」と感じる世の中)
精神的な影響を受けず、単に物理的に生きることが困難な状況というものは想定することが難しいため、-ニクイが許容されない。
- (13) a. ok 服が燃えにくいように作られています。
b. *服が燃えづらいように作られています。
(解釈；物理的に、あまり燃えない、もしくは全く燃えない素材で作られた服)
「服が燃える」ことにより動作主が直接精神的影響を受けるわけではない。単純に「燃える」ことの困難さを表すため、-ヅライは許容されない。
- (14) a. ok 犯人が外部の人間であるとは考えにくい。
b. ??犯人が外部の人間であるとは考えづらい。
(解釈：外部の人間が犯人である可能性が低い)
単純に「外部犯であると考えることが難しい」という難易度の高さを表す側面と、犯行現場の状況などによって「外部犯であると考えようとしても、そう考えられないつらさ」があるという側面。ただし前者が強く表れているため後者の容認度がやや下がる。
- (15) a. ok 写真では分かりにくいので、実際に見てみましょう。
b. ok 写真では分かりづらいので、実際に見てみましょう。
(解釈：写真だけでは実物がどんなものかわからない)

「写真だけで分かる」度合いが低いという側面と、「写真だけで実物を想像してみたが、どうしても分からないつらさ」があるという側面。

- (16) a. ok なるほど、その非難は今でも通用する。なぜなら、われわれの家というのは非常に扱いにくい財産であるから、その中に住むというより、しばしば監禁されているようなものだ。
- b. ? なるほど、その非難は今でも通用する。なぜなら、われわれの家というのは非常に扱いづらい財産であるから、その中に住むというより、しばしば監禁されているようなものだ。

(解釈：家を扱う・管理することが難しい)

扱うことが困難である原因がなんであるにしろ、単純にその困難さを述べる側面と、「家を扱おうとしても扱うことが出来ない」という動作主への心理的影響がある側面。ただし後者より前者が強く表れているため容認度が上がる。

- (17) a. ok 上野動物園のシャンシャンの観覧申込はあまりに人気で、当たりにくいらしい。
- b. ? 上野動物園のシャンシャンの観覧申込はあまりに人気で、当たりづらいらしい。

(解釈：観覧申込になかなか当たらない)

単純に、抽選に当たる可能性が低い、なかなか当たらないことを表す側面と、「当たって欲しいのに全く当たらないもどかしさ・つらさ」を表す側面がある。

「困難さの原因が外的か、内的か」という言い方をしてしまうと説明できない部分も出てくるため、単純に「その動作が困難である、難易度が高い、可能性が低い」ことを表す-クイと、「困難さによって動作主が何らかの心理的影響を受ける」-ズライと言い換えることができよう。

5. アンケート調査による検証

5.1. 調査内容

3章でのコーパス調査では先行研究のとおり、数の上での-ヅライの台頭は見られなかった。しかしこれは書き言葉の上での結果である。使用したコーパスには年代の差が見られる点、そしてテレビや会話においては-ヅライが使用されている場合が多い、という執筆者の感覚もあり、話し言葉では同様の結果となるのか、ということを検証したい。同時に4章の仮説と先行研究の検証、そして年代・世代における使用の差異などの調査も行った。

5.2. 調査方法

Google フォームを使用した選択式のアンケートを行った。対象の選出方法としては、年代ごとの傾向を把握するために、執筆者の知人である20代の若者にアンケートのリンクを送り、その後彼らの親や親戚、知人などにも協力してもらう、というかたちを取った。また、Twitter や Facebook にもアンケートのリンクを貼った投稿を行った。

次に、アンケートの中身だが、回答者の年齢、性別、出身地をフェイス項目とし冒頭で聞き、その後例文を読み、-ニクイか-ヅライのどちらを使用するのが自然か（もしくは「どちらも同じように使用する」のか）を、いずれか1つ選んでもらうかたちとした。

出身地については、執筆者の所属大学の学生やその知人が多いということを鑑みて、「福岡県」と「福岡県以外」の2択を設定し、後者を選んだ回答者のみ、個別で出身都道府県を回答してもらった。

例文の形式としては、会話を意識しやすいよう A と B のセリフ調の会話文形式で、なるべく自然な会話となるように作成した。なお、冒頭に注意事項として、回答者が実際に B として会話していると仮定し、その際に-ニクイと-ヅライのどちらを選ぶかを選んで欲しい、という旨を記載している。

使用した例文は、鈴木（2014）などの先行研究で使用されていた例文を、できるだけ原型を留めたまま話し言葉に変更して使用したものと、回答者の-ニクイ・-ヅライの選択傾向を知るため、3章のコーパス調査において出現数が多かった動詞をもとに作成したものが³。

実際に使用した例文と、Google フォームにおける表示画面のイメージ等は巻末資料を参照していただきたい。

³ アンケート調査で使用した例文は[1]-[31]である。そのうち[1]-[18]は先行研究を参考に作成した例文であり、[19]以降は執筆者が作成した例文である。

5.3. 調査結果と分析

5.3.1. 回答者について

まず回答者についてだが、5章2節の選出方法により18～75歳の合計203名の男女に回答していただいた。回答者の年齢、出身地の内訳については下記の図を参照してほしい。

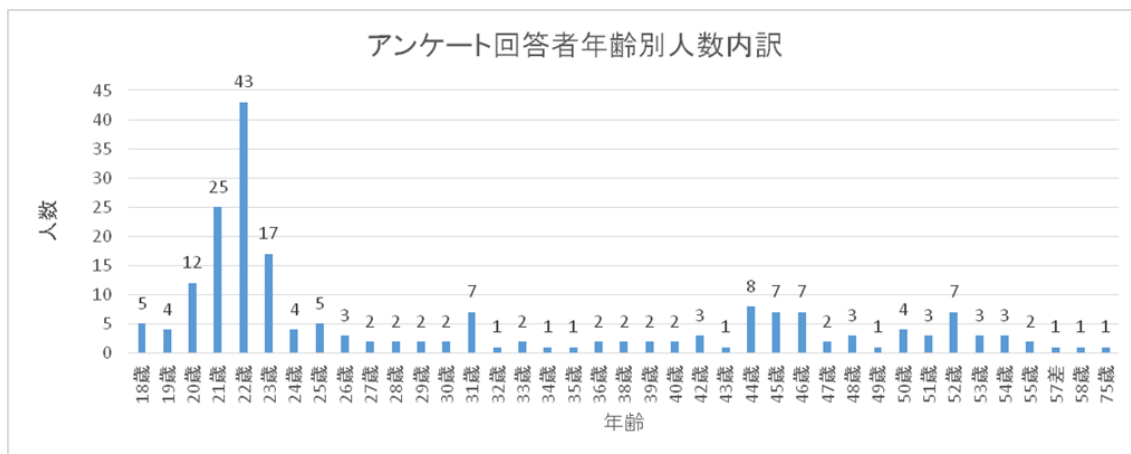


図 1 アンケート回答者年齢別人数内訳

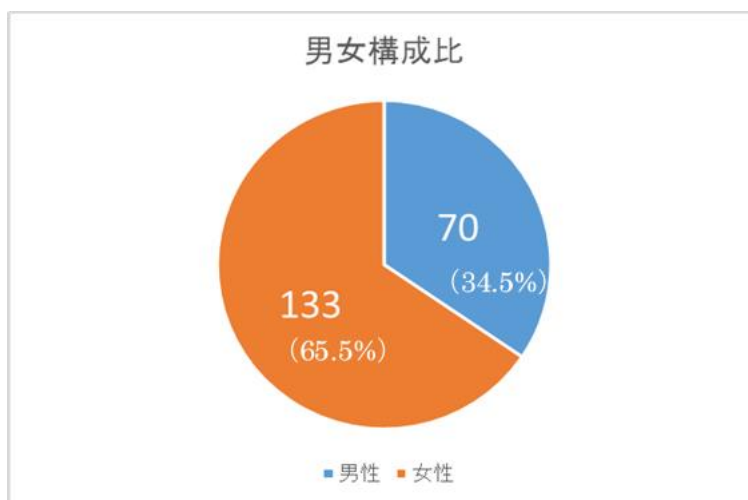


図 2 アンケート回答者男女構成比

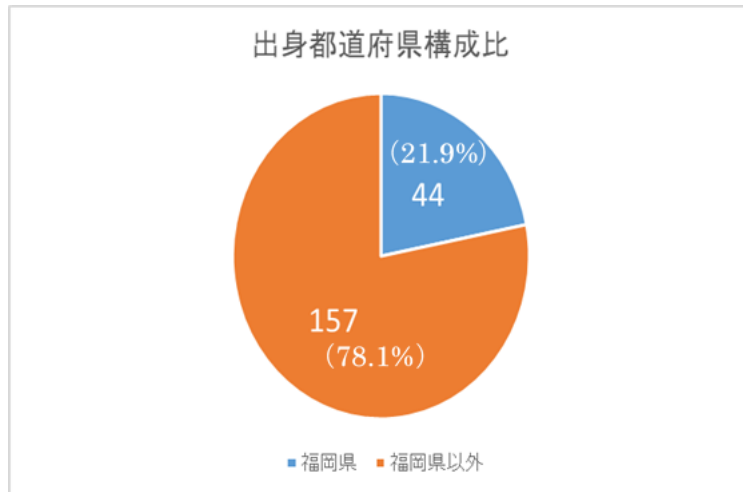


図 3 アンケート回答者出身都道府県構成比

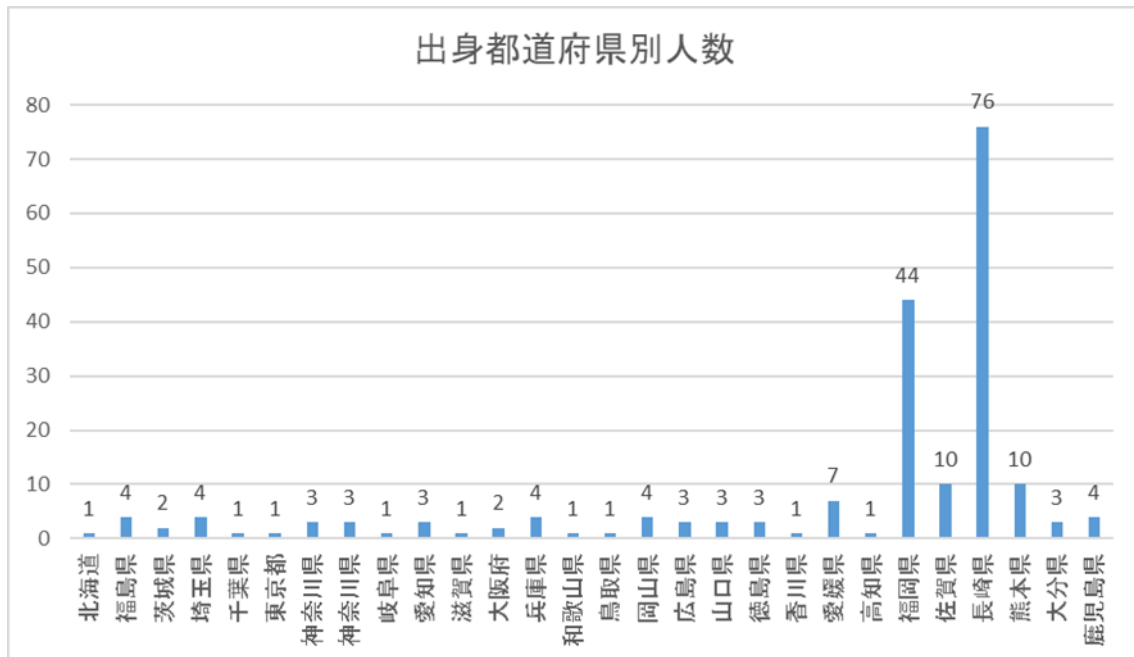


図 4 アンケート回答者出身都道府県別人数内訳

5.3.2. 年齢による差異

まず、年齢による違いについて見てみたい。今回の調査では回答者の年齢構成比のばらつきが大きく（図 1 参照）、回答者が特に 20 代に集中しているため、18～20 歳の 21 人と 50～58 歳の 24 人を抽出して比較する。なお便宜上前者を若年層、後者を高年層とした。各年齢の人数内訳は図 4 を参照いただきたい。

まず若年層と高年層での、-ニクイと-ヅライ使用の全体的な傾向を探るため、例文全 31 文において-ニクイと-ヅライ、そして「どちらも同じように使用する」と回答したそれぞれの回答数とその割合を集計した（表 3）。若年層・高年層とも無回答はなく、必

ず3つの選択肢のうち、いずれかを回答している。また、高年層のほうが若年層より3人多いため、回答数も93多い。そのため割合で考察する。

その結果、若年層では-ニクイを選択した割合が約46%、-ヅライが約37%、「どちらも同様に使用する」が約17%となった。高年層では-ニクイが約64%、-ヅライが約25%、「どちらも同様に使用する」が約10%であった。この数字から考えると、若年層は-ニクイの使用が多いものの半数を超えるほどではなく、-ニクイと-ヅライの両方を使用することが多く、あまり違いはないと考えて両者を使用している人が多い、という傾向があるとみえる。一方高年層では、-ニクイを選択する傾向が強く、「どちらも同様に使用する」割合が低いため、-ニクイを使用する場面と-ヅライを使用する場面の差が比較的はっきりしていると考えられる。

上記の結果から、高年層では-ヅライを使用せず-ニクイを使うほうが自然だと考えられる場面で、若年層は-ヅライを使用できる、もしくはどちらを使用しても自然である、と考える人が多い。すなわち、数の上では確かに-ニクイの使用が多いものの、若年層においては高年層と比べて-ヅライの使用範囲が広く、かつ-ヅライが-ニクイの使用範囲を脅かしつつあると考えられる。

これまでは-ヅライの使用分布の拡大を実生活においては実感しうるにも関わらず、先行研究ではそれを結論付けることが出来ていなかった。しかし今回のアンケート調査においてははっきりと、若年層において-ヅライの使用分布が拡大している⁴ことが見て取れる結果となった。

	若年層		高年層	
	回答数	割合(%)	回答数	割合(%)
-ニクイ	302	46.4	479	64.4
-ヅライ	241	37.0	187	25.1
どちらも同様に使用する	108	16.6	78	10.5

表 4 若年層・高年層における回答数とその割合

5.4. 仮説の検証

続いて4章で提示した仮説の検証を行った。方法としては、従来提唱されてきた「-ニクイは外的要因文、-ヅライは内的要因文において使用される」という考え方で今回使用した例文⁵を分類したもの(図5および6)と、本稿で提唱する、「-ニクイは単純

⁴ なお、この点について重回帰分析も同時に行った。結果は巻末を参照いただきたい。

⁵ 巻末の例文一覧を参照されたい。このうち、[1]-[18]は5章4節での先行研究を検証するために作成した例文であり動詞の選択等に偏りがあるため、[19]-[31]の例文を分類した。なお[19]-[31]は5章2節でも述べたが、コーパスにおいて使用頻度が高かった動詞を使用し、執筆者が例文を

な困難さを表し、-ツライは困難さによって動作主が心理的影響を受けることを表す」という仮説に従って分類した場合のグラフ（図7および8）を比較して、どちらの説明がより妥当であるかを検討した。なお、今回使用した31文それぞれの結果については巻末を参照されたい。

結果、図5では外的要因文であるにも関わらず-ツライが半数を超える[25]が含まれてしまっている。また-ニクイの割合と、-ツライ・「どちらも同様に使用する」をあわせた割合とで比較するとほぼ同程度となっている例文も多く見られる。一方図7および8では、[20]と[25]が-ツライに分類されており、図7には-ニクイの割合のみで過半数に及ぶ例文で占められている。

[20]は、「読み（にくい・づらい）」要因は「Aが書いた作文」にあり従来の仮説によれば外的要因文と判断できる。しかし4章の仮説に従って検討すると、この文の場合、例えば英語で書かれているなど、作文を全く読むことができない状況だったわけではないため、単純に作文を読むことが困難であることを示すというより、読むことが困難であることによるBへの心理的影響（例えば「なかなか読み進められないな、煩わしいな」という感情）が強く表れている状況だと考えるべきである。

また[25]においても、Bが彼女と並んで歩くことが難しい原因は「他人から『彼氏はブサイクだな』と思われること」であり、従来の仮説に基づくと外的要因文となる。しかしこの場合も単純に並んで歩くことが難しいということを示すというよりは、それによってBへの心理的影響の強さを提示している文であると考えべきだ。

よっても[25]も、単純な困難さを表すのではなく、困難さによって話し手が心理的影響を受けている場合と考え、-ツライに分類できる。

[20]

A「先生、私の作文、どうでしたか」

B「誤字脱字が多いし字も汚くて、（読みにくかったです・読みづらかったです）」

[25]

A「お前の彼女、めっちゃ美人じゃん！」

B「そうなんだよ。でも、『美人なのに彼氏はブサイクだな』って周りに思われそうで、並んで（歩きにくい・歩きづらい）んだ…」

作成した。

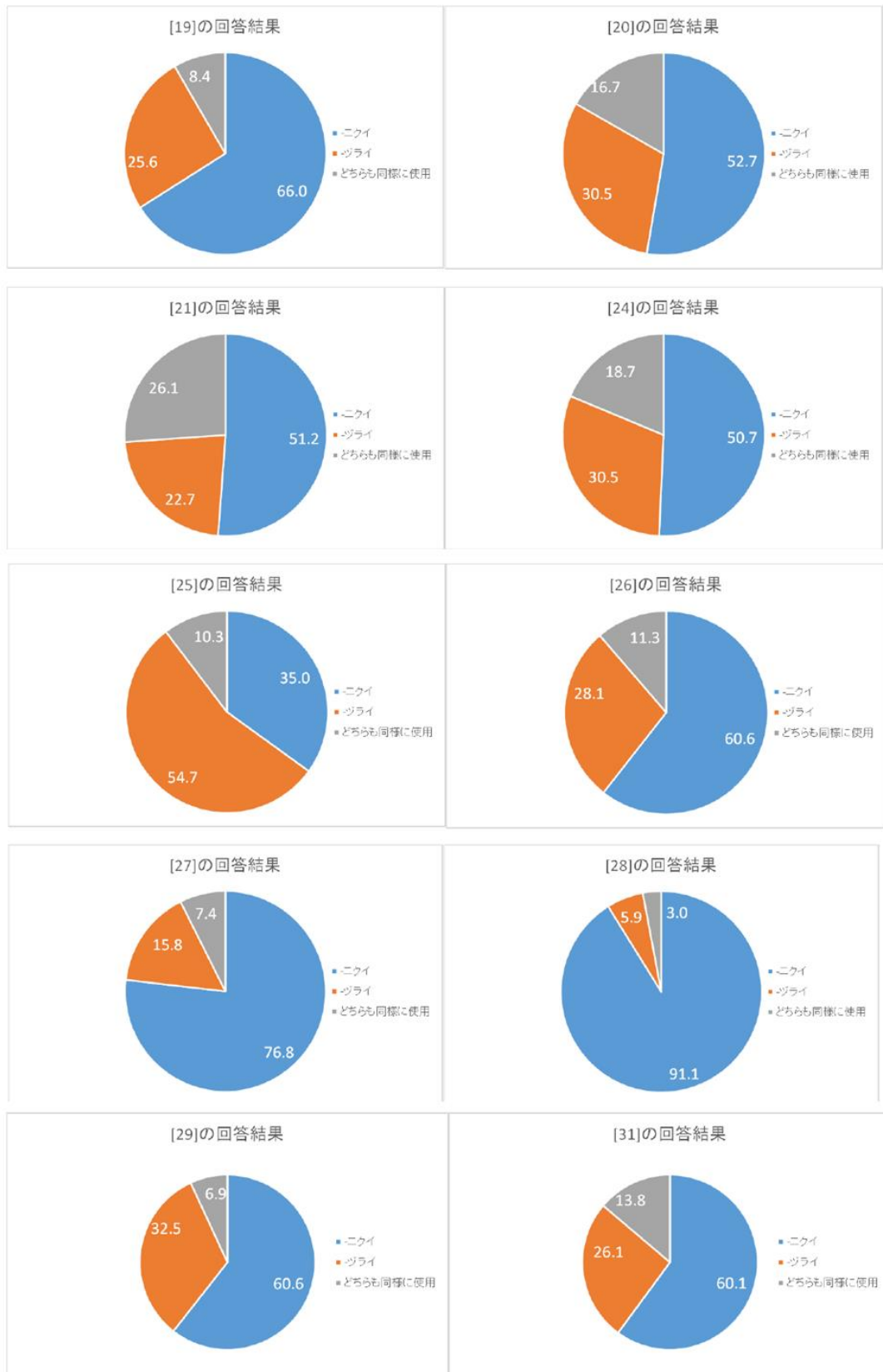


図 5 従来の仮説に従って分類した例文一覧 (-ニクイ文)

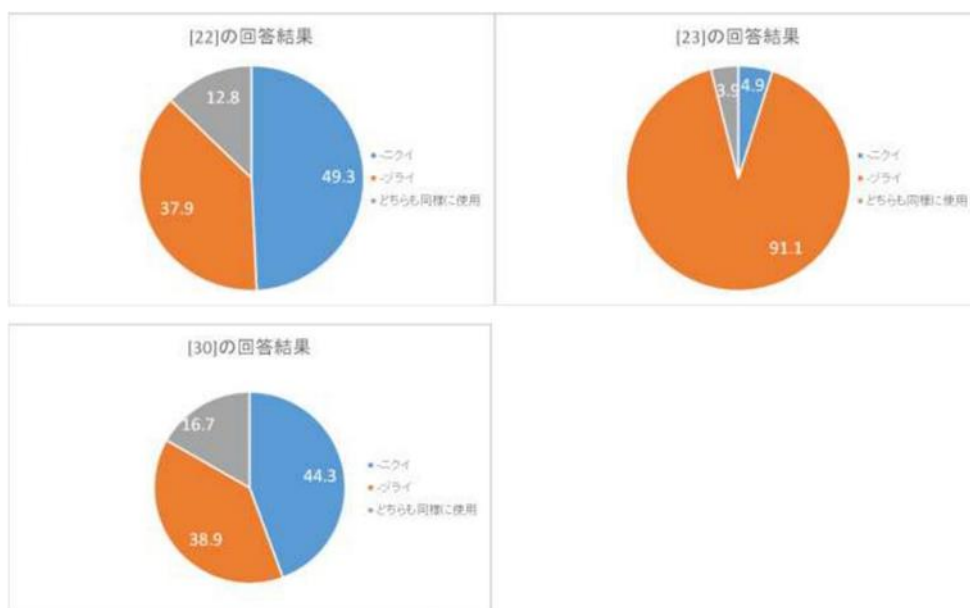


図 6 従来の仮説に従って分類した例文一覧 (-ヅライ文)

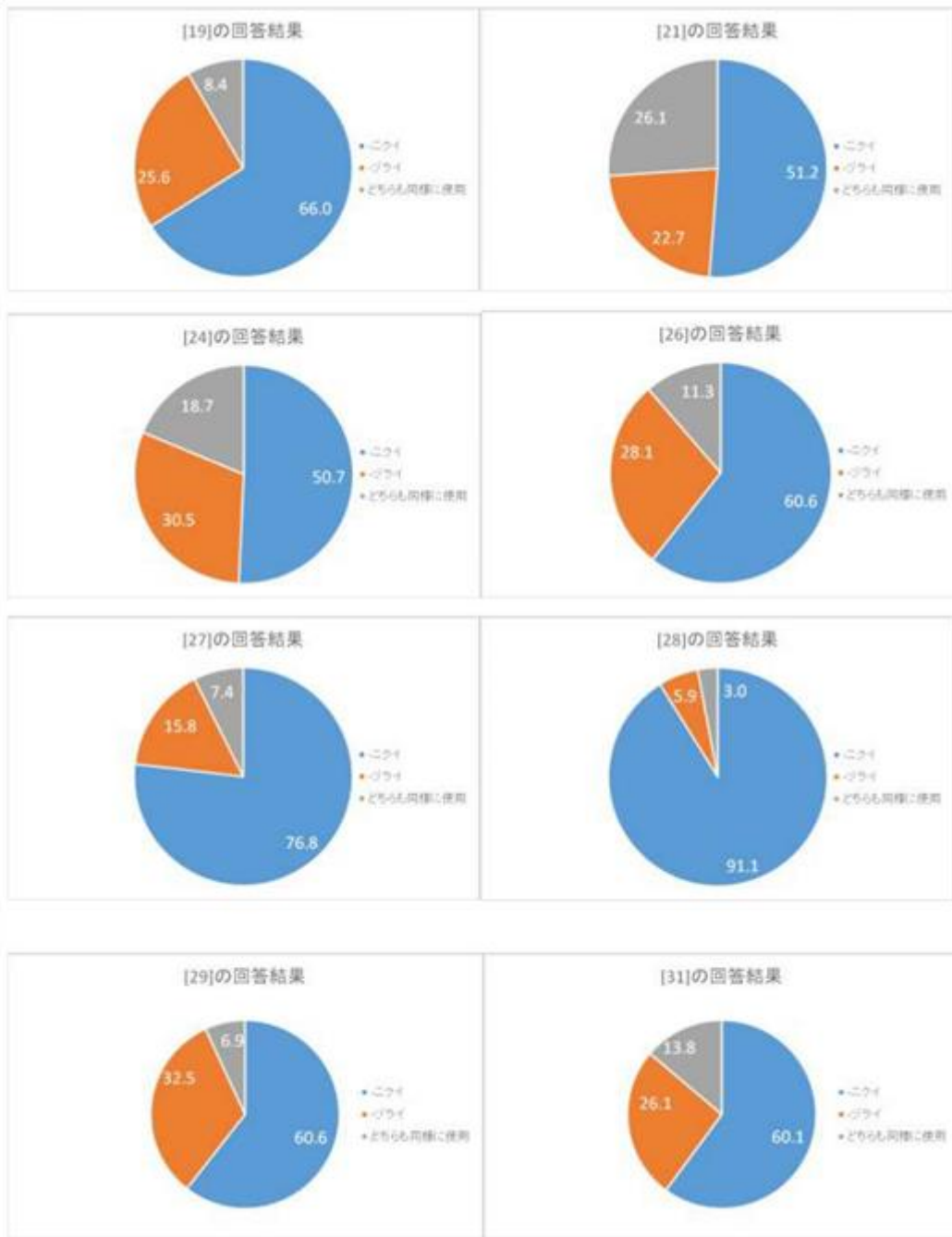


図 7 執筆者の仮説に従って分類した例文一覧 (-ニクイ文)

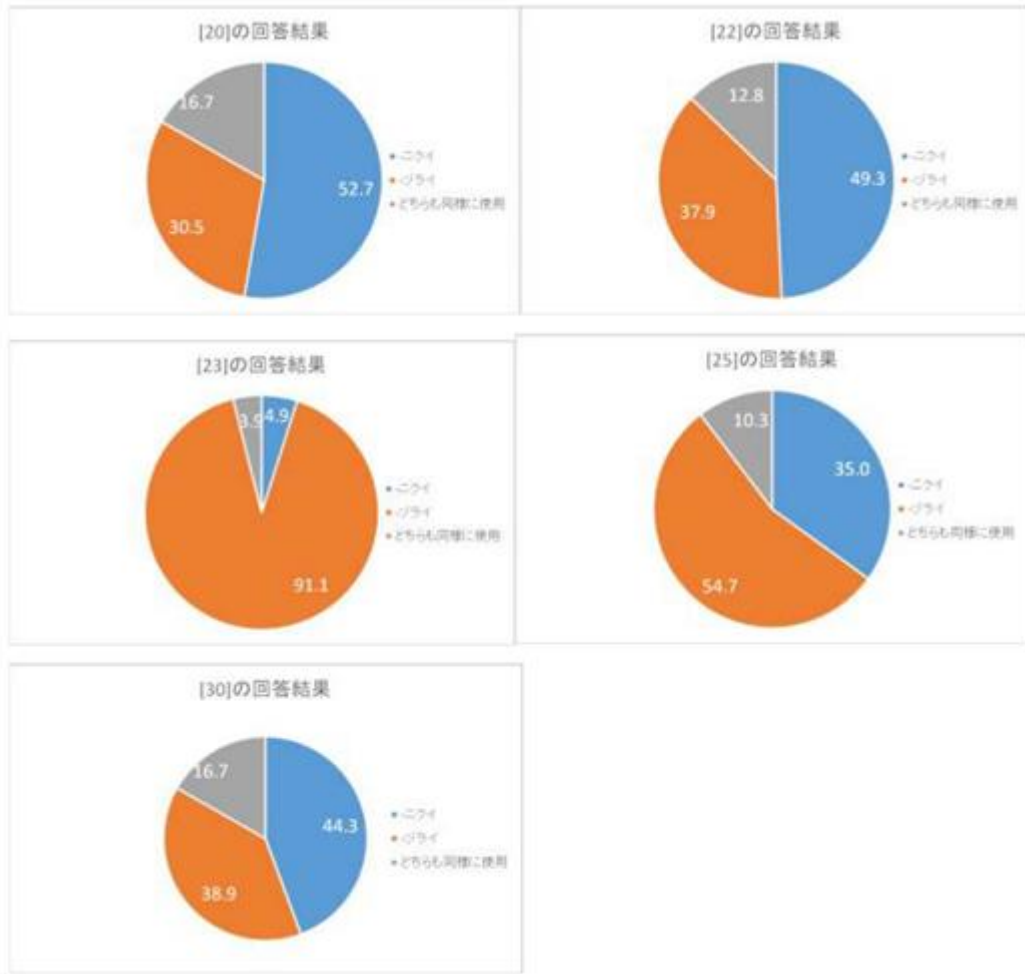


図 8 執筆者の仮説に従って分類した例文一覧 (-ズライ文)

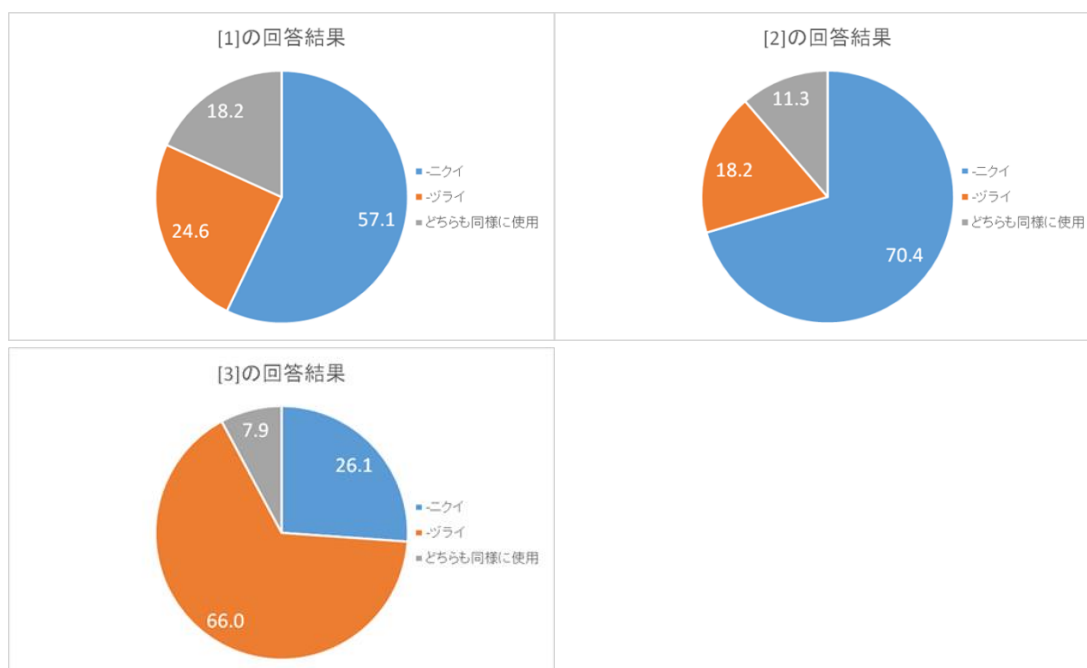
5.5. 先行研究の検証

5.5.1. 飛田・浅田（1991）、三木（2004）の検証

詳細は2章1節を参照いただきたい。飛田・浅田（1991）、三木（2004）のどちらも、[1]のような外的要因によって困難な場合⁶は-ニクイをとり、[2]のような内的要因の場合は-ヅライをとるとしている。しかし執筆者としては、要因によって-ニクイ・-ヅライの選択がなされるのではないため、外的要因の場合にヅライをとることも、その逆もありうると考えている。さらに困難さの要因として外的なのか内的なのかが一概に判断できないような[3]の場合が説明されていないと考えた。

さて、今回のアンケート結果では、外的要因の[1]も内的要因の[2]の場合も-ニクイの割合が最も高く、次いで-ヅライ、どちらも使用できる、という並びになった。特に内的要因である[2]は、外的要因文[1]と比べて-ヅライの割合が低く出ており、-ヅライをとりやすいとする先行研究とは一致しない。[3]では[1][2]と異なり-ヅライが最も多い結果となった。

これらを踏まえて、飛田・浅田（1991）や三木(2004) で言われているような、困難さの原因が外的か内的か、ということによって使い分けられているとは言えない。



[1] （登山ツアーに参加し、山を登っている場面で）

A（参加者）「ここまでは結構スイスイ登れましたね」

B（添乗員）「でもここから先は、木の根っこが張り出していて（歩きにくい・

⁶ [1]-[3]は執筆者が作成した例文であり、先行研究から引用したものではない。

歩きづらい) から注意してくださいね」

[2] (友人に相談事を聞いてもらっている場面で)

A「こういう話ってさ、親にはなかなか相談できないよね…」

B「そうそう。身近な人だからこそ、(打ち明けにくい・打ち明けづらい) ことってあるよね…」

[3] (会社の同僚と社会問題を話している場面で)

A「ブラック企業、サービス残業、各種ハラスメント…問題が多い社会だな」

B「(生きにくい・生きづらい) 世の中になったもんですよ、全く」

5.5.2. 鈴木 (2014) の検証

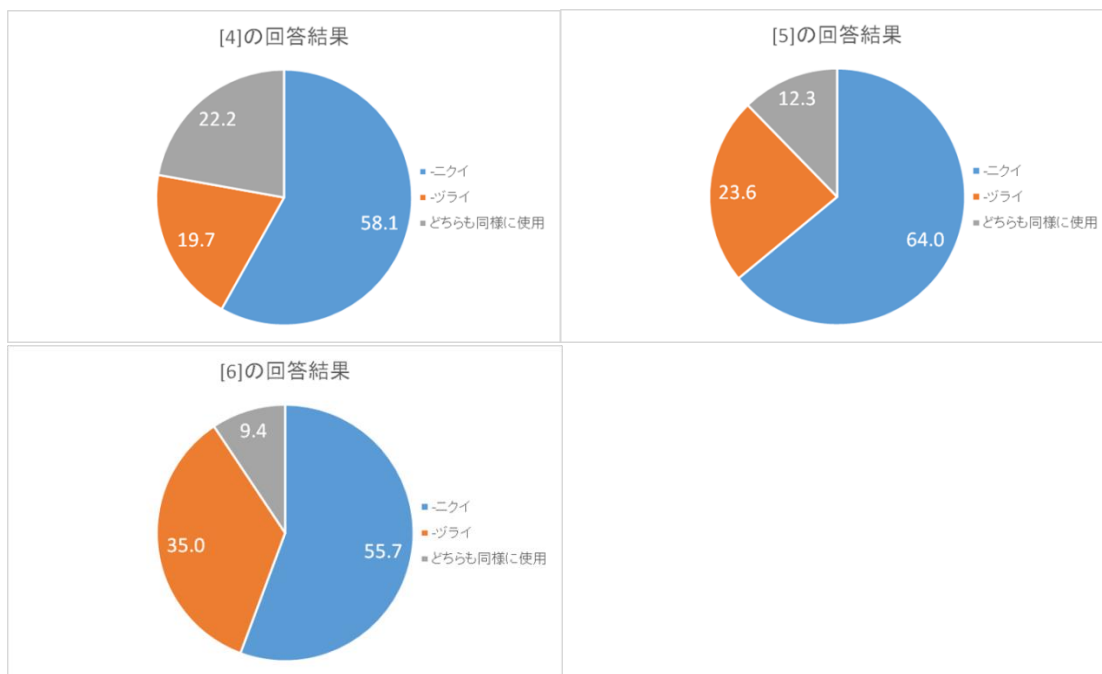
詳細は2章5節を参照いただきたい。鈴木 (2014) では、実現不可能性と心理的抵抗感という要因が挙げられており、実現不可能性が高いと-ニクイをとりやすく、動作主への心理的抵抗感が大きく普遍性のある恥ずかしさだと-ズライをとりやすいとされている。さらに外的要因のうち身体的痛み、特にケガの場合は、外的要因にも関わらず-ズライを取りやすいという。

しかし執筆者としては、実現不可能かどうかは文脈や場面に依存する面が大きく、心理的抵抗感についてもどの程度の「恥ずかしさ」であるかは個人差が大きく一概には言えないため、-ニクイ・-ズライの選択にはそれほど影響がないと考える。またケガの場合も外的・内的という分け方では-ニクイ・-ズライを明確に説明できないためあまり差は出ないのではないかと考える。

ではアンケートの結果を見てみたい。まず実現不可能性との関連を考える。[4][5]は実現不可能性が高く、-ニクイ・-ズライの代わりに「できない」を使用しても意味に差異がないとされる文であり、[6]は実現不可能性がそれほど高くないとされる文である。鈴木 (2014) のとおりであれば、前者2つの例文では-ニクイがより多く選択され、後者では前者2つに比べて-ズライが高くなっているはずだ。

今回の結果、まず3文とも-ニクイの割合が最も高く、ついで-ズライがくる結果となった。また、[6]が最も-ズライの割合が高くなっており、「どちらも同様に使用する」と回答した割合が最も低いことから、[4][5]と比較して-ズライをより選択する傾向が高いことがわかる。[4]と[5]では、-ニクイの割合が[6][3]でのそれを超えており先行研究の指摘通りと思われる。しかし、-ズライも一定の割合を占めており、特に[4][1]では「どちらも同様に使用する」と答えた割合も高い。そのため、-ズライより-ニクイが積極的に選択されていると明言するには及ばず、-ニクイを選択しやすい傾向がある、と結論づけたい。

したがって今回の結果としては、[6]の例文において[4][5]と比較して-ヅライが選択されやすいとは言えるものの、[4][5]で-ニクイが選択されやすいとまでは言いがたい結果となった。よって実現不可能性との関連については断言することはできない。



[4] (家具屋で購入したテーブルを組み立てる場面で)

A 「ねえ、早くテーブル組み立ててよ」

B 「説明書が複雑すぎて (わかりにくい・わかりづらい) なんだよ…。ちょっと待ってて」 [鈴木 2014 : 100-101, B-28]

[5] (友人との会話で)

A 「ジュース買って来たよ」

B 「ありがとう。でもごめん、爪切ったばかりで (開にくい・開けづらい) から開けてくれる？」 [鈴木 2014 : 100-101, A-01]

[6] (友人の家に遊びに来た場面で)

A (友人) 「ドクダミ茶しかないけど飲む？」

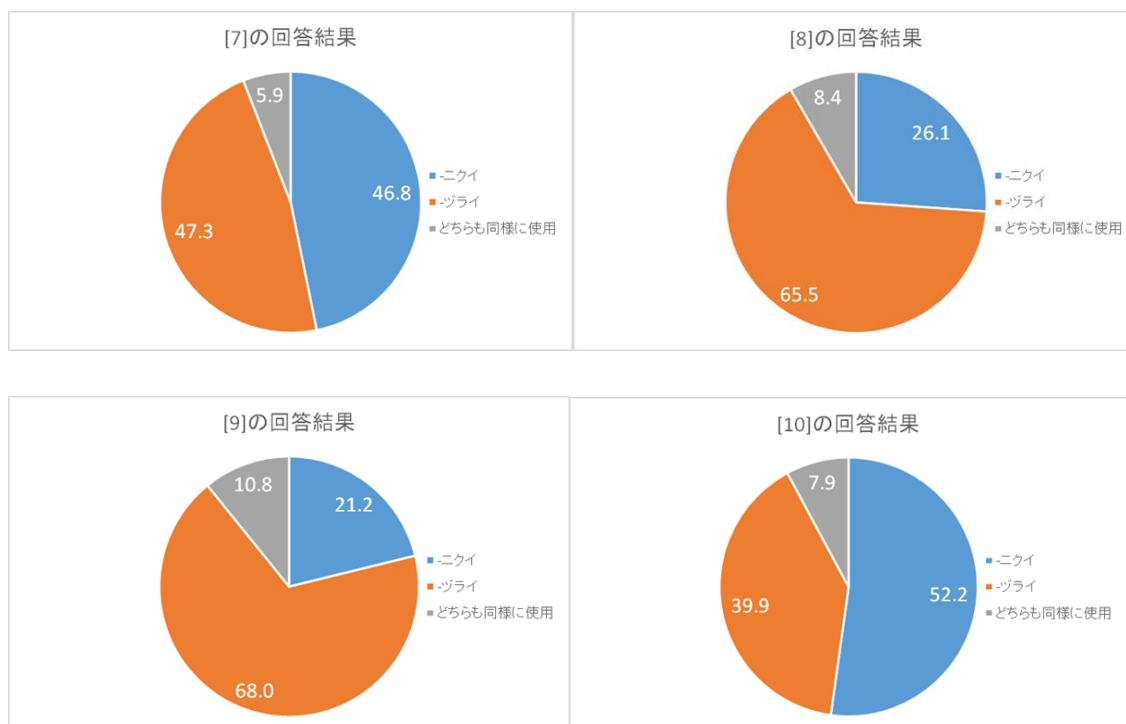
B (あなた) 「うーん…苦味が強くて (飲みにくい・飲みづらい) からいいや。」
[鈴木 2014 : 100-101, A-25]

続いて、心理的抵抗感との関連を考えたい。先行研究から考えると、心理的抵抗感が大きく、普遍的な恥ずかしさがある[7]と[9]では-ヅライが選択されやすく、[8]と[10]では-ヅライの割合が低くなるはずである。

さて今回のアンケートでは、[7]-[10]において5章4節や先程の実現不可能性の考察で使用した例文と比べて-ヅライの割合が高いことがひと目で分かる。-ヅライを使用すると答えた割合が6割を超える例文も見られた。

続いて、[7]と[9]、[8]と[10]とで比較してみると、どちらのペアも、-ニクイと-ヅライの割合が拮抗している例と、明らかに-ヅライの割合が高い例とのセットになっていることは分かる。しかし鈴木（2014）で言われていたような、[7]と[9]とで-ヅライが選択されやすくなっているということは言えない結果となった。さらに鈴木（2014）のとおりならば-ヅライの選択が-ニクイとそれほど変わらないとされていた[8]で、-ヅライの割合が6割を超える結果となっていることから、鈴木（2014）で言う心理的抵抗感の大きさを選択要因とするのであれば、やはりその抵抗感や恥ずかしさの度合いは人それぞれであり、[7]では抵抗感が大きく[8]では小さい、と判断することの困難さが浮き彫りとなった。

上記の結果から、心理的抵抗感や恥ずかしさの度合いを要因として-ニクイ・-ヅライの選択が行われていると考えることは困難であると言える。

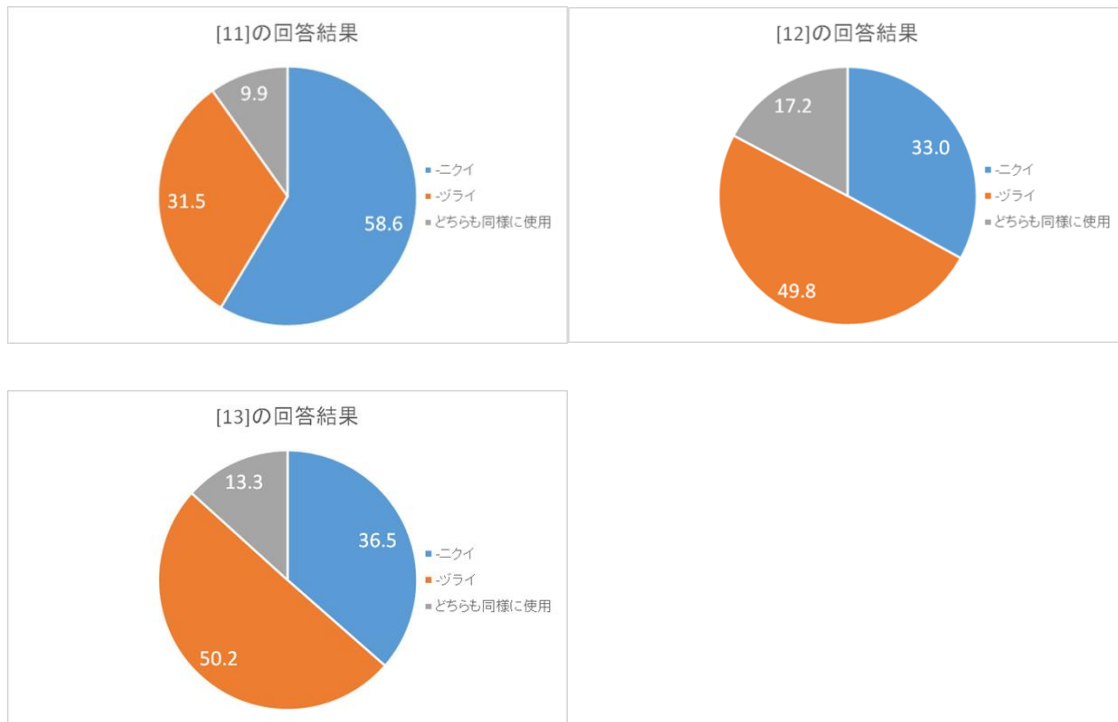


- [7] (病院から帰った直後、母親との会話で)
 A (母親) 「あらま、痔になったの？薬は？」
 B (あなた) 「恥ずかしくて (買いにくい・買いづらい) からまだ買ってないの…」 [鈴木 2014 : 100-101, A-19]
- [8] (恋人から免許証の写真を見せてと頼まれた場面で)
 A (恋人) 「免許証の写真見せてよ」
 B (あなた) 「うーん…いいよ。太っている頃に撮った写真だから (見せにくい・見せづらい) んだけど…」 [鈴木 2014 : 100-101, B-14]
- [9] (友人との登山で)
 A 「俺を置いて先に下山しろ」
 B 「でもお前怪我してるし… (下山しにくい・下山しづらい) よ」 [鈴木 2014 : 100-101, B-16]
- [10] (友人との会話で)
 A 「えっ、これもらっていいの！？新品じゃん」
 B 「使ってないんだけど、プレゼントで貰ったから (捨てにくくて・捨てづらくて) …良かったら使って」 [鈴木 2014 : 100-101, B-20]

最後に、身体的痛みを困難さの原因とする例文について考察したい。鈴木 (2014) では身体的痛み、特に怪我が原因となっている場合には、外的要因にも関わらず「外的要因が身体的痛みという内的要因に還元された場合、反対に『づらい』が選択されやすくなる」 (鈴木 2014: 117) という。

では今回の結果を見てみたい。[11]が怪我を原因とする文であり、[12][13]が怪我ではない身体的痛みを原因とする文⁷である。鈴木 (2014) によると前者が後者に比べて-ズライをとりやすくなるという。しかし、今回の結果では全く反対の結果となり、[11]では-ニクイの割合が最も高いが、[12][13]において-ズライの割合が最も高くほぼ半数に及ぶ結果になっている。この結果から、鈴木 (2014) において見られた、怪我を要因とする文での-ズライの選択傾向の高さは偶然の結果であり、普遍性のある要因とは考えられないといえることができる。

⁷ なお、どの場合が怪我でどの場合が怪我ではないかという判断は鈴木 (2014) に依った。しかし、マメを怪我とするか否かで判断が分かれることが容易に想像できることから、「怪我か否かによって-ニクイ・-ズライの選択がされている」という主張の不十分さが伺える。



[11] (友人との会話で)

A 「ジュース買って来たよ」

B 「ありがとう。でも指先をけがしちゃって、痛くて缶が（開にくい・開けづらい）から開けてくれる？」 [鈴木 2014 : 100-101, A-02]

[12] (友人に絆創膏を持っているかと尋ねた場面で)

A (友人) 「絆創膏？持ってるけど、どうしたの？」

B (あなた) 「マメができてて、痛くて（歩きにくい・歩きづらい）の」
[鈴木 2014 : 100-101, A-05]

[13] (歯科医院での診察の場面で)

A (歯科医) 「今日はどうされましたか？」

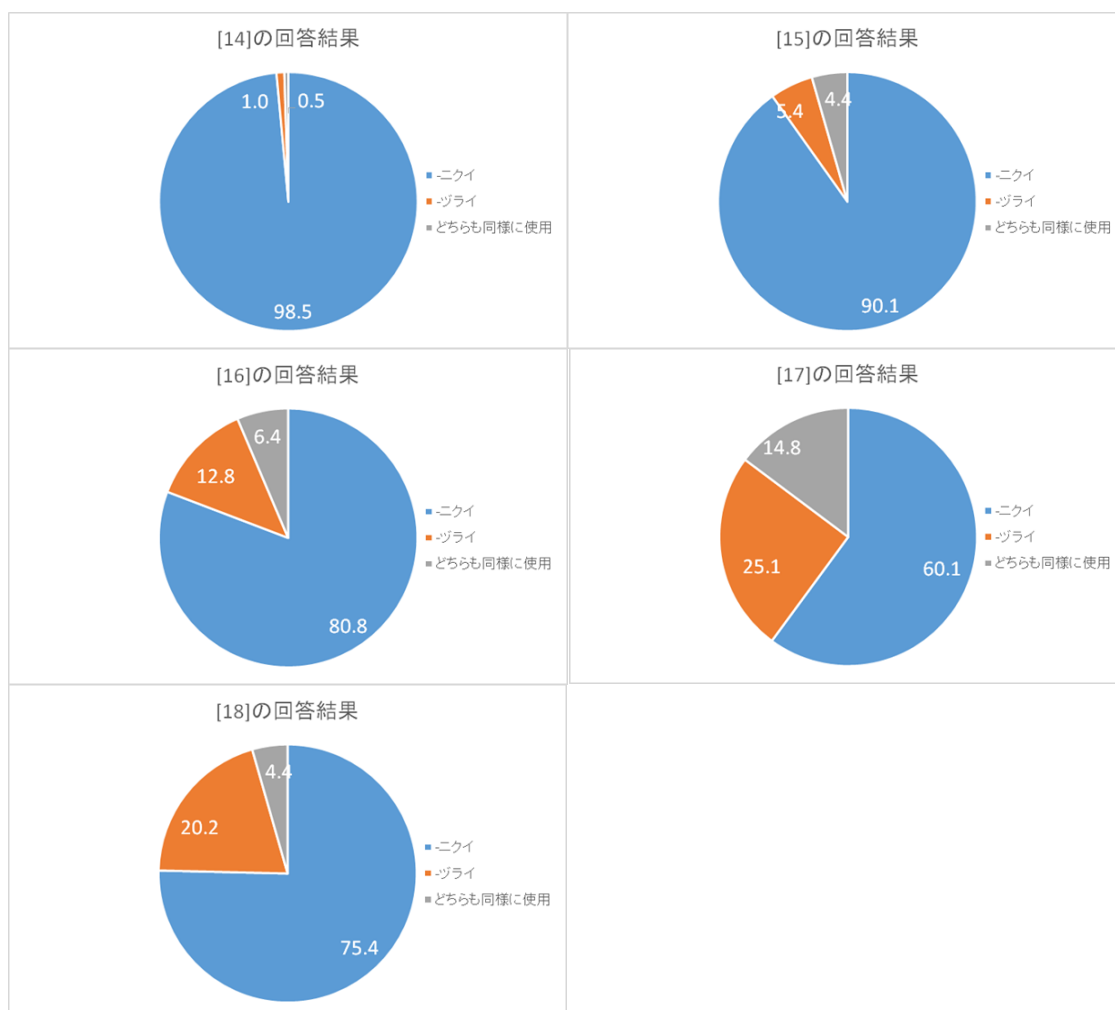
B (あなた) 「虫歯ができてしまって、痛くて（噛みにくい・噛みづらい）んです」
[鈴木 2014 : 100-101, B-01]

5.5.3. 金 (2001) の検証

金 (2001) や多くの先行研究で言及されていた、-ヅライと無意志動詞の結合について分析していきたい。

今回は「折れる」、「見つかる」、「繋がる」、「見える」、「出る」という無意志動詞を選択し、それぞれについて会話文を作成した。なお、これらの動詞は3章で使用したコーパスの例文で使用されていた無意志動詞から選択したものであり、例文については執筆者独自のものである。

さて今回の結果についてだが、従来から無意志動詞と結合しないといわれているだけあってか、5文すべてが-ニクイの割合が最も多く、9割を超えるものもあった。しかし、[17]のように1/4の回答者が-ヅライを許容している例も見られ、「どちらも同様に使用する」と答えた回答者の割合を含めるとほぼ4割を占める。ほかの例文においても、-ヅライの割合が0%となることはなく、割合の差はあれど-ヅライを許容できる回答者が一定数存在している。この結果から、長年提唱されてきた「-ヅライは無意志動詞と結合しない」という主張を再考するべきであり、前接動詞の性質だけで-ヅライの特性を判断することはできないと考えるべきだ。



[14] (友人との会話で)

A「またシャーペンの芯が折れちゃった」

B「最近は(折れにくい・折れづらい) 芯も売ってるみたいだよ」

[15] (かくれんぼをしている場面で)

A「ねえ、どこに隠れる？」

B「ぼく(見つかりにくい・見つかりづらい) 場所知ってるから、そこに行こう！」

[16] (部下が外回りに出かける場面で)

A(部下)「では外出してきます。1時間後にお電話しても大丈夫ですか？」

B(上司)「おう。ただ俺会議中だから、電話が(繋がりにくい・繋がりにくい) ときはメールで頼む」

[17] (眼科で新しくコンタクトを作る場面で)

A「こちらが新しいコンタクトレンズです。装着してみて、見え方にお変わりはありませんか？」

B「うーん…前より(見えにくく・見えづらく) なった気がします」

[18] (美容院で髪を染める場面で)

A(客)「就活が終わったので、茶色に染めたいんですけど」

B(美容師)「そのままだと髪色が(出にくい・出づらい) ので、一度黒染めを落としましょうか」

6. おわりに

6.1. まとめ

今回の調査では、まずコーパスをもとに、-ニクイと-ヅライに前接する動詞やその例文を調査し、どういった使われ方をしているのか、-ニクイ・-ヅライが選択されている場面において差異はあるのか、という点と先行研究の検証を行った。その結果、数の上ではやはり-ニクイが-ヅライを上回っており、前接動詞の種類も-ニクイ文のほうが多かった。意味・用法の面では、先行研究で言及されていた外的要因・内的要因の違いが影響しているとはっきり述べることはできなかった。また、鈴木（2014）で述べられていた実現不可能性と心理的抵抗感の要因だが、両者とも今回使用したコーパスでは普遍性のある要因と考えることはできなかった。

そこで新たな仮説として、単純に「その動作が困難である、難易度が高い、可能性が低い」ことを表す場合に-ニクイ、「困難さによって動作主が何らかの心理的影響を受ける」場合に-ヅライが使用される傾向にある、と述べるべきであるという考え方を提示した。この説明であれば従来の「無意志動詞と-ヅライは結びつかない」という考えに対する反例を説明できうる。

次に、仮説の検証と話し言葉における使用動向を調査するため、アンケート調査を実施した。仮説の検証では、従来の考え方に基づいて例文を分類した結果と、執筆者の仮説に基づいて分類した結果を比べ、どちらがより妥当性が高いかを比較した。その結果従来の仮説に基づいた場合に比べて-ニクイと-ヅライをより正確に分類することができ、今回の仮説の妥当性を証明できた。また、-ニクイと-ヅライ使用の世代差を見た結果、若年層において-ヅライが-ニクイの使用分布を侵していることが確認され、先行研究では断言されるに至らなかった-ヅライの台頭を、数値の上で立証した結果となった。

6.2. さらなる問題と課題

これまでコーパスとアンケート調査によって4章の仮説の妥当性を証明してきたが、必ずしもこの説明だけですべてが説明できるとも限らない。

以下に、要因を設定しない文、外的要因の文、心理的要因の文の3つを作成した。(18)では、単純に入ることが難しい状況（例えば、入り口が狭い、扉が低いなど）を想像しやすいのは(18a)ではなく(18b)である。また、(19)(20)では「入ることが難しい」要因を設定したにも関わらず、-ニクイ・-ヅライでの差どころか(18)で感じられた違いも薄れている。

- (18) a. ok 入りにくそうな喫茶店だ
b. ok 入りづらそうな喫茶店だ。

- (19) a. ok 入り口に草が生い茂っていて、入りにくそうな喫茶店だ。
b. ok 入り口に草が生い茂っていて、入りづらそうな喫茶店だ。

- (20) a. ok 高級感が漂っていて、入りにくそうな喫茶店だ
b. ok 高級感が漂っていて、入りづらそうな喫茶店だ。

しかし、どちらを選択するか、-ニクイ文と-ヅライ文での感じ方の違いなどは個人差が大きく、どちらの文でも常に「違いがない、全く同じ意味」と感じる場合もあるかもしれない。現に(18)の例では、筆者は単純な困難さを表していると考えたのは(18b)であったが真逆に捉える人物がいてもおかしくはない。

さらに、この4章の仮説は、実際に-ニクイ・-ヅライが予め選択された例文にあたって導き出した傾向であり、-ニクイ・-ヅライ文を明確に分類するガイドラインの役割は果たしていない。かつ、動作の困難さは読み取れても、「話し手が心理的に影響を受けている」のか否かを話し手以外の第三者が見極めることは困難とも言える。そのため、日本語学習者や-ニクイ・-ヅライを機械的に選別する場合にはあまり役に立たない仮説であるともいえる。今後さらなる検証を行い、一般化を求めていかなければならない。

また、アンケート調査においては、回答者の年齢や出身地などの偏りが非常に大きくなってしまった。分析の際はその偏りを考慮し可能な限り精緻な観察を試みたが、偏りによる影響がないとは言えない。サンプルの抽出については一層の配慮をすべきであった。また今回のアンケートでは方言を使用せずに作成した例文を用いたが、「より自然なほうを選択して欲しい」という旨を明記したため、「もっと方言に即した例文にしてほしかった」という意見も回答者から聞かれた。さらに若者向けの会話文になっており、高年層には容易に想像し難い会話も多かったはずだ。使用する例文の内容も吟味すべきであった。

参考文献

- 金城克哉 (2011) 「コーパス分析に基づく「~にくい」・「~づらい」表現の研究」琉球大学留学生センター紀要 8 : 19-35.
- 金庚洙 (2001) 「「~にくい」と「~づらい」をめぐる」修士論文、仁荷大学校大学院。
- 進藤真理 (2014) 「「~にくい」と「~づらい」の使い分けについて—コーパスを利用した調査—」日本経大論集 43-2 : 365 - 392.
- 鈴木基伸 (2013) 「ヤスイ・ニクイの意味決定に関与する名詞句の意味役割」大手町大学論集、14 : 155-170.
- 鈴木基伸 (2014) 「困難さを表す「にくい」と「づらい」はどのように使い分けられているか—アンケート結果の分析と考察—」大手町大学論集、第 15 : 95-118.
- 鈴木基伸 (2016) 「ヤスイ・ニクイの意味と成立要件」大手町大学論集、第 16 : 75-87.
- 高島俊男 (2007) 「「にくい」から「づらい」へ」文藝春秋『文藝春秋』85(1) : 86—88.
- 飛田良文・浅田秀子 (1991) 『現代形容詞用法辞典』東京堂出版。
- 松田浩志・亀田美保他 (2006) 『テーマ別 上級で学ぶ日本語』研究社。
- 三木望 (2004) 「「~づらい」について—自発と否定、可能の連続性—」、影山太郎・岸本秀樹編『日本語の分析と言語類型：紫谷方良教授還暦記念論文集』、くろしお出版。
- 森田良行 (1977) 『基礎日本語文法—意味と使い方』、角川書店。

巻末付録

アンケートの例文一覧

以下には、アンケート調査で使用した例文を掲載する。この 31 文に乱数を振り分け、順番を入れ替えた上で調査を実施した。

- [1] (登山ツアーに参加し、山を登っている場面で)
A (参加者) 「ここまでは結構スイスイ登れましたね」
B (添乗員) 「でもここから先は、木の根っこが張り出していて (歩きにくい・歩きづらい) から注意してくださいね」
- [2] (友人に相談事を聞いてもらっている場面で)
A 「こういう話ってさ、親にはなかなか相談できないよね…」
B 「そうそう。身近な人だからこそ、(打ち明けにくい・打ち明けづらい) ことってあるよね…」
- [3] (会社の同僚と社会問題を話している場面で)
A 「ブラック企業、サービス残業、各種ハラスメント…問題が多い社会だな」
B 「(生きにくい・生きづらい) 世の中になったもんですよ、全く」
- [4] (家具屋で購入したテーブルを組み立てる場面で)
A 「ねえ、早くテーブル組み立ててよ」
B 「説明書が複雑すぎて (わかりにくい・わかりづらい) んだよ…。ちょっと待ってて」
- [5] (友人との会話で)
A 「ジュース買ってきたよ」
B 「ありがとう。でもごめん、爪切ったばっかで (開にくい・開けづらい) から開けてくれる？」
- [6] (友人の家に遊びに来た場面で)
A (友人) 「ドクダミ茶しかないけど飲む？」
B (あなた) 「うーん…苦味が強くて (飲みにくい・飲みづらい) からいいや。」
- [7] (病院から帰った直後、母親との会話で)
A (母親) 「あらま、痔になったの？薬は？」
B (あなた) 「恥ずかしくて (買いにくい・買いづらい) からまだ買っていな

いの…」

- [8] (恋人から免許証の写真を見せてと頼まれた場面で)
A (恋人) 「免許証の写真見せてよ」
B (あなた) 「うーん…いいよ。太っている頃に撮った写真だから (見せにくい・見せづらい) んだけど…」
- [9] (友人との登山で)
A 「俺を置いて先に下山しろ」
B 「でもお前怪我してるし… (下山しにくい・下山しづらい) よ」
- [10] (友人との会話で)
A 「えっ、これもらっていいの!? 新品じゃん」
B 「使ってないんだけど、プレゼントで貰ったから (捨てるにたくて・捨てるにづらくて) …良かったら使って」
- [11] (友人との会話で)
A 「ジュース買って来たよ」
B 「ありがとう。でも指先をけがしちゃって、痛くて缶が (開にくい・開けづらくて) から開けてくれる？」
- [12] (友人に絆創膏を持っているかと尋ねた場面で)
A (友人) 「絆創膏? 持ってるけど、どうしたの？」
B (あなた) 「マメができてて、痛くて (歩きにくい・歩きづらい) の」
- [13] (歯科医院での診察の場面で)
A (歯科医) 「今日はどうされましたか？」
B (あなた) 「虫歯ができてしまって、痛くて (噛みにくい・噛みづらい) なんです」
- [14] (友人との会話で)
A 「またシャーペンの芯が折れちゃった」
B 「最近 (折れにくい・折れづらくて) 芯も売ってるみたいだよ」
- [15] (かくれんぼをしている場面で)
A 「ねえ、どこに隠れる？」

B「ぼく（見つかりにくい・見つかりづらい）場所知ってるから、そこに行こう！」

[16]（部下が外回りに出かける場面で）

A（部下）「では外出してきます。1時間後にお電話しても大丈夫ですか？」

B（上司）「おう。ただ俺会議中だから、電話が（繋がりにくい・繋がりがづらい）ときはメールで頼む」

[17]（眼科で新しくコンタクトを作る場面で）

A「こちらが新しいコンタクトレンズです。装着してみて、見え方にお変化はありませんか？」

B「うーん…前より（見えにくく・見えづらく）なった気がします」

[18]（美容院で髪を染める場面で）

A（客）「就活が終わったので、茶色に染めたいんですけど」

B（美容師）「そのままだと髪色が（出にくい・出づらい）ので、一度黒染めを落としましょうか」

[19]（友人との会話で）

A「Bって左利きだっけ？」

B「うん。だからハサミとかが（使いにくいんだよね・使いづらいんだよね）」

[20]

A「先生、私の作文、どうでしたか」

B「誤字脱字が多いし字も汚くて、（読みにくかったです・読みづらかったです）」

[21]

A「この椅子動かしていいですか？」

B「いいよ。作業が（しにくい・しづらい）だろうし」

[22]（友人との会話で）

A「どうする？今日の合コン。行く？」

B「うーん行こうかな…。いまさら行かないとは（言いにくい・言いづらい）し。」

[23] (友人との会話で)

A「この間彼氏と出かけたんだけど、そしたら立ち寄ったカフェの店員が偶然元カレでさ…」

B「うわぁ…彼氏さん、めっちゃ（居にくそう・居づらそう）…」

[24] (靴屋で、靴を試着する場面で)

A「こちらのパンプスは新作となっております。履き心地はいかがでしょう？」

B「色は可愛いけど、ヒールが高すぎて（歩きにくいですね・歩きづらいですね）…」

[25]

A「お前の彼女、めっちゃ美人じゃん！」

B「そうなんだよ。でも、『美人なのに彼氏はブサイクだな』って周りに思われそうで、並んで（歩きにくい・歩きづらい）んだ…」

[26] (友人との会話で)

A「今年のコンクール課題曲、めっちゃ難しいよね」

B「なんか複雑で音程が（取りにくい・取りづらい）曲だよ。音取りに時間かかりそう」

[27] (会社の同僚との会話で)

A「また社内で盗難事件があったらしいよ」

B「これだけ社内で続いているところを見ると、外部犯とは（考えにくい・考えづらい）よね…」

[28] (服屋で、店員に質問する場面で)

A (客)「新しいシャツを買う予定なんですけど、おすすめありますか？」

B (店員)「なるべくシワに（なりにくい・なりづらい）素材を選ばれると良いと思いますよ」

[29] (会社の同僚との会話で)

A「非正規雇用が多いの、どうにかならないっすかね」

B「うちの会社は特に正社員に（なりにくい・なりづらい）環境だからなあ…」

[30] (バイト先の同僚との会話で)

A「新しく入ってきたバイト、30代のおっさんらしいですよ」

B「うわ、俺教育係なんだけど、めっちゃ(やりにくい・やりづらい)やん・・・」

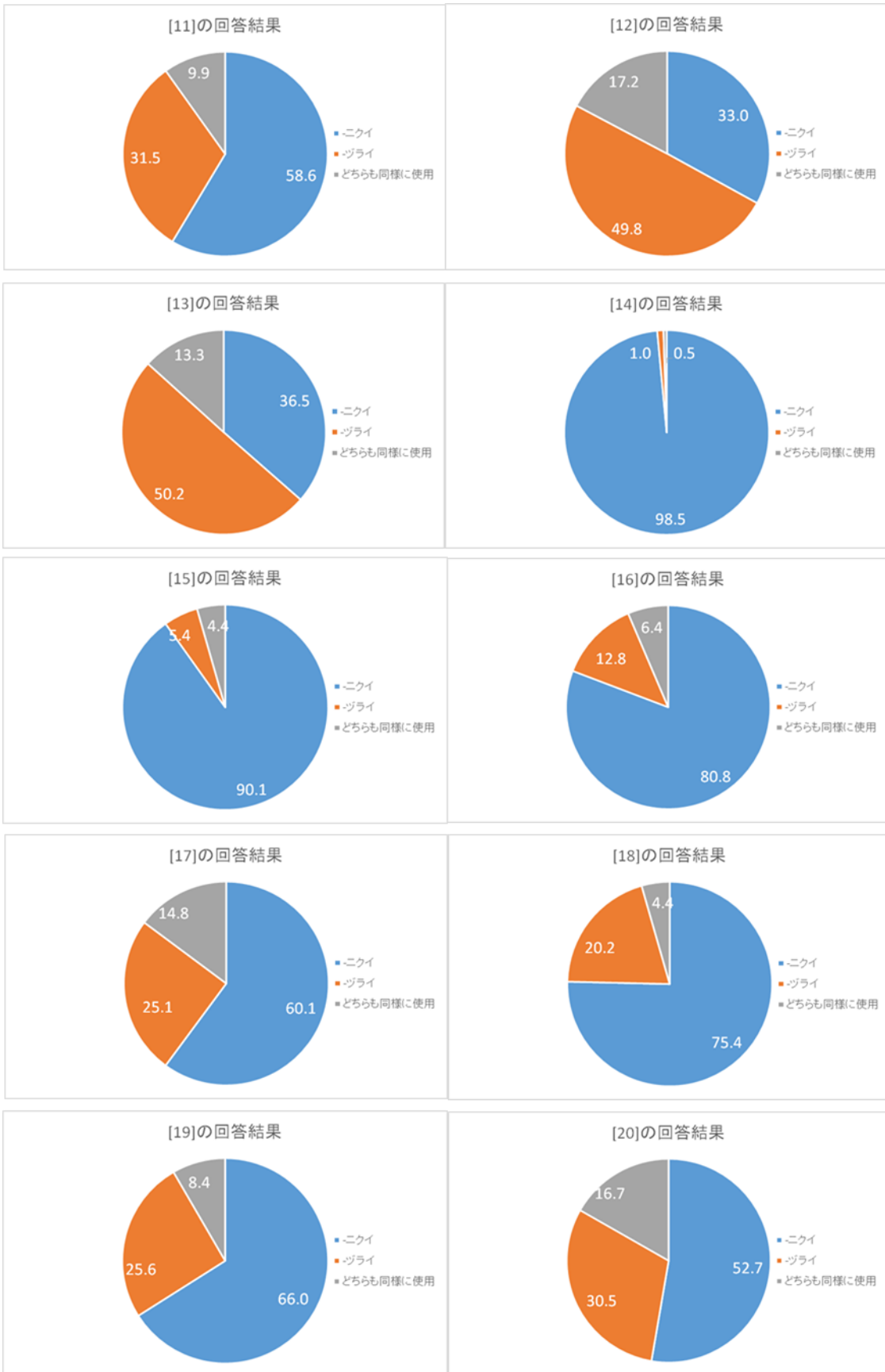
[31] (友人とゲームをしている場面で)

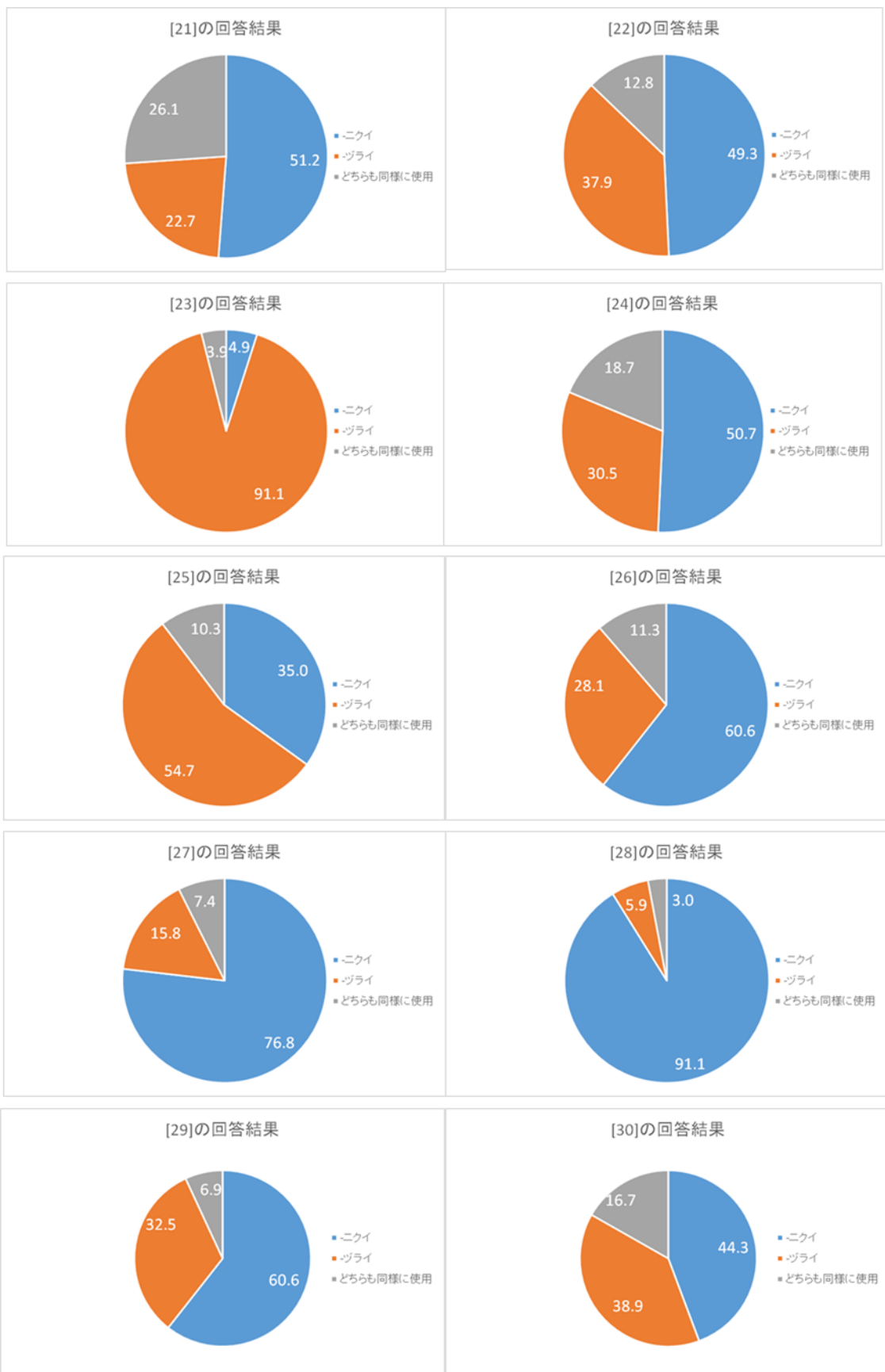
A「あれえ、ゲーマーとか言ってたのにめっちゃ負けてるじゃん。弱っ」

B「うるせえ、コントローラーがいつもと違うから(やりにくい・やりづらい)んだよ！」

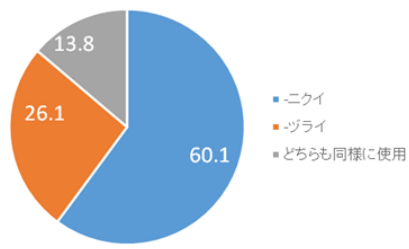
各例文の回答結果一覧







[31]の回答結果



重回帰分析の結果

困難さ表現 (1.-ニクイ 2.同程度 3.-ツライ) を従属変数とし年齢、性別、出身地 (1.北海道～47.沖縄) を独立変数とした重回帰分析の結果、年齢の主効果が有意であった。このことから年齢が低いほど-ツライを使用し、年齢が高いほど-ニクイを使うことが分かった。また交互作用は有意ではなかった。

変数名	困難さ表現	SE
年齢	-0.31 **	0.00
性別	0.00	0.04
出身地	-0.06	0.00
年齢*性別	0.00	0.00
年齢*出身地	-0.03	0.00
性別*出身地	0.07	0.01
年齢*性別*出身地	-0.11	0.00
R^2	0.13 **	
F値	4.24	

** $p < .01$, * $p < .05$, + $p < .10$

Google フォームの回答画面イメージ

1 ページ目 (説明とフェイス項目)

話し言葉におけるニクイ・ツライの使用動向

【回答締め切り 11/30】
アンケートにご協力ありがとうございます。
このアンケートは、困難さを表す「〜しニクイ・〜しツライ」という表現の、会話における使用動向を調査するものです。

以下の会話の場面において、ニクイ・ツライを使用する例文を設定しています。
あなたがより自然だと思ふ方の選択肢を選んでください。
会話文を読みながら、実際にあなたがBの立場として会話をしている、と考えながらお答えください。

質問は合計37問あります。すべて回答し終えるのにおよそ15分ほど、お時間を頂きます。

アンケートを中断する場合は、ブラウザを開いたままにしておく、途中から再開できます。
回答を変更する際は、ページ下部にある「戻る」ボタンを押して下さい。
ブラウザの「戻る」ボタンを押してしまうと、回答が消去されてしまうのでご注意ください。

九州大学文学部 言語学研究室

***必須**

質問 1 *
あなたの年齢をお答えください。(半角数字のみ)

回答を入力

質問 2 *
あなたの性別をお答えください。

男性

女性

質問 3 *
あなたの出身地をお答えください。

福岡県

福岡県以外

質問 4
質問3で「福岡県以外」を選択した方にお聞きします。あなたのご出身をお答え下さい。(都道府県)

回答を入力

次へ

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

2 ページ目～5 ページ目（例文合計 31 個）

話し言葉におけるニクイ・ツライの使用動向

***必須**

話し言葉におけるニクイ・ツライの使用動向

引き続きご回答下さい。（2 / 6 ページ）

以下の会話の場面において、ニクイ・ツライを使用する例文を設定しています。あなたがより自然だと思っ方の選択肢を選んでください。会話文を読みながら、実際にあなたがBの立場として会話をしている、と考えながらお答えください。

アンケートを中断する場合は、ブラウザを開いたままにしておくと、途中から再開できます。回答を変更する際は、ページ下部にある「戻る」ボタンを押して下さい。ブラウザの「戻る」ボタンを押してしまうと、回答が消去されてしまうのでご注意ください。

なお、携帯・スマートフォンで閲覧する場合、例文の画像が小さく映ってしまうようです。お手数ですが拡大等をして、ご回答下さい。

質問5

以下の会話のBのセリフにおいて、（ ）の言い方のうち、自然なほうをお選びください。

A「この椅子動かしていいですか？」
B「いいよ。作業が（ ）しづらいだろうし」

しにくい
 しづらい
 どちらも同じように使用する

質問6

以下の会話のBのセリフにおいて、（ ）の言い方のうち、自然なほうをお選びください。

（友人との会話で）
A「今年のエンケル課題曲、めっちゃ難しいよね」
B「なんか複雑で音程が（ ）取りづらい曲だね。音取りに時間かかりそう」

取りにくい
 取りづらい
 どちらも同じように使用する

質問7

以下の会話のBのセリフにおいて、（ ）の言い方のうち、自然なほうをお選びください。

（美容院で髪を染める場面で）
A（客）「就活が終わったので、茶色に染めたいんですけど」
B（美容師）「そのままだと髪色が（ ）出づらいので、一度黒染めを落としましょうか」

出にくい
 出づらい
 どちらも同じように使用する

戻る 次へ

6 ページ目

話し言葉におけるニクイ・ツライの使用動向

話し言葉におけるニクイ・ツライの使用動向

ご回答ありがとうございます。
質問はこのセクションで最後となります。

質問36
このアンケートについて、ご意見・ご感想をお寄せください。
回答を入力

質問37
このアンケートの結果を知りたい方には、後日メールで結果をお送りいたします。ご希望の方はメールアドレスをご記入下さい。
回答を入力

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

このコンテンツは Google が作成または承認したものではありません。不正行為の報告・利用規約・追加規約

7 ページ目 (最終ページ)

話し言葉におけるニクイ・ツライの使用動向

アンケートは以上で終わりです。

アンケートへのご協力、誠にありがとうございました。
このアンケートで回答していただいた年齢や性別等すべての情報は、調査実施の趣旨以外の目的では一切使用いたしません。

お忙しい中、ご協力ありがとうございました。

Google フォームでパスワードを送信しないでください。

謝辞

本稿の執筆にあたり、担当教授の上山あゆみ教授には丁寧かつ熱心なご指導を賜りました。深く感謝申し上げます。お忙しい中毎週お時間を作っていただき、私の稚拙な質問にも真摯に対応いただきました。また、方向性に悩んだ際にも温かいお言葉をかけてくださり、最後まで書き上げることが出来ました。本当にありがとうございました。

さらにアンケート調査におきましては、九州大学文学部人文学科言語学・応用言語学研究室の皆様、文学部人文学科の4年生の皆様、そしてそのご家族・ご友人の方々など、多方面の皆様にご協力いただきました。回答期間が2週間という短い期間だったにも関わらず、203名の方に回答していただくことができ、データを得ることが出来ました。ひとえに皆様のご協力のおかげです。心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。